

授業科目名： 社会情報概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 吉田 智子
		担当形態：単独	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業の到達目標及びテーマ			
社会情報・情報科学（データサイエンス・AIを含む）および関連領域に関する知識を身につける。			
授業の概要			
情報科学の基礎と応用分野との関わりを考える。 AI、ビッグデータ、デジタルアーカイブ、デジタルシティズンシップに代表される情報分野の用語の本質を知る。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 AI（人工知能）とコンピュータが扱うデータについて			
第3回 社会現象を正しく観察し理解するためのデータの扱い方			
第4回 デジタルアーカイブを中心とした人々と情報との関わりについて			
第5回 教育に関する青年の心理をデータでどう扱うか			
第6回 生涯発達心理学をデータで読み解く			
第7回 中間まとめ			
第8回 他者とのコミュニケーションを装いの社会・心理学から考える			
第9回 家族に関する外国との比較研究と情報			
第10回 実社会に資するコミュニケーションの力とは			
第11回 AIのデータ利用例を自然言語処理研修の分野から			
第12回 情報教育、デジタルシティズンシップ（情報モラル）教育とは			
第13回 技術の社会での情報の活用、役立て方を考える			
第14回 技術だけでは成立しないAI分野に人間はどう関わっていくべきか			
第15回 社会の変化、価値観の変容とキャリア			
テキスト			
特に指定なし			
参考書・参考資料等			
よくわかる社会情報学 西垣通・伊藤守 編著 ミネルヴァ書房			

学生に対する評価

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 毎回の授業への取り組み姿勢と内容：70%
- (2) 2回の提出レポートに対する評価：30%

授業科目名： 情報の科学と倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 神月 紀輔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業の到達目標及びテーマ			
一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになっている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなってきた。 本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを知るとともに、扱われる情報の価値や、人権問題にも目を向け基礎的な情報倫理の知識も得ることを目標とする。			
授業の概要			
1. コンピュータの構造について学ぶ			
2. 情報のデジタル化とアルゴリズムについて学ぶ			
3. データサイエンスやAIの社会的意義を基礎的に学ぶ			
4. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ			
授業計画			
第1回 授業の概要紹介			
第2回 情報理論とデジタル・アナログ			
第3回 ハードウェアとソフトウェア			
第4回 コンピュータの仕組みとOS，コンピュータの歴史			
第5回 コンピュータの発展 小テスト1回目と解説			
第6回 情報のデジタル化 数字，文字			
第7回 情報のデジタル化 音声，画像			
第8回 アルゴリズムとその考え方			
第9回 情報の検索と収集 小テスト2回目と解説			
第10回 情報の信頼性と信憑性			
第11回 知的財産権の保護			
第12回 情報通信の仕組みとセキュリティ			
第13回 高度情報化社会の展望と問題点，デジタルシティズンシップ			

第14回 情報モラルの考え方，小テスト3回目と解説

第15回 全体のまとめ，自己評価

テキスト

参考書・参考資料等

佐々木良一他 著「新2版 情報科学入門 教育としてのコンピュータ」（日本理工出版会）

大嶋淳俊 著「情報活用学入門」（学文社）

坂村健 著「痛快！コンピュータ学」（集英社文庫）

坂本旬 ほか 著「デジタル・シティズンシップ」（大月書店）

高等学校での教科「情報」の教科書

学生に対する評価

30 点満点の小テストを 3 回実施し，授業への参加度（コメントの入力態度を含む）・毎回の respon への授業コメントおよび自己評価を加えた 10 点を加算し 100 点満点で評価を行う。

3 回の小テストで合計点が 60 点に満たない場合は，補講期間に追試を実施する。

授業科目名： インターネット社会論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 吉田 智子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業の到達目標及びテーマ			
インターネット環境は1990年代以降、急速に世界中に広まった。この新しいメディアは、かつてのものとは異なる発展形態をもっているため、従来のメディア研究の常識では理解しきれない要素も多い。そこでまず、コンピュータとインターネットの発展の社会的背景とテクノロジーについて学ぶ。その後、LINE、twitter、Facebookに代表されるSNS(Social Networking System)の発展、さらには人工知能(AI)の発展に寄与している要素を考える。現在のデジタル社会を正しく考察できる知識の習得を目標としたい。			
授業の概要			
以下の内容を理解する。 ・ コンピュータとインターネットの発展 ・ silent majority（静かなる大衆）が手に入れたSNS ・ SNSの発展を可能にした各種のテクノロジー ・ ビッグデータ、IoT、AIの関係性と社会の変化 ・ データやAIにまつわるセキュリティ			
授業計画			
第1回 ガイダンス 授業概要、ネット社会を理解する上でのキーワード（コンピュータ、インターネット、IoT、ビッグデータ、AIなど）、日本における未来志向型インフラ・テクノロジーのハイプ・サイクル			
第2回 進化するテクノロジーと社会 第五の権力としてのSNS(Social Networking System)、silent majority（静かなる大衆）が手にしたSNSの社会的意味、第4次産業革命、Society5.0			
第3回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(1) コンピュータの小型化の歴史、ムーアの法則、半導体、トランジスタ、CPUとは？			
第4回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(2) コンピュータ、インターネット環境の発展と背景となったテクノロジー、OSS（オープンソース・ソフトウェア）			
第5回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(3)			

OS（オペレーティング・システム）、日本の携帯電話事情（組み込みOSのガラケーから汎用OSのスマホへ）、iPhoneとAndroidのビジネスモデル（iOSはApple社の商品、Androidはオープンソース）

第6回 インターネット環境で育った独自のネット文化

インターネットの独自の文化は1990年代になってからのWWW発明と商用利用の解禁によって大衆化。Webページのリンク文化全盛期を経て、スマホのアプリ中心文化、サブスクビジネス、AI時代へ。

第7回 ビッグデータとAIの関係性と社会の変化(1)

AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは？

第8回 ビッグデータとAIの関係性と社会の変化(2)

ビッグデータの定義とデータ駆動型社会、社会でどのようなデータが活用されているか、機器のログとオープンデータ、データがお金を生み出すしくみ

第9回 ビッグデータとAIの関係性と社会の変化(3)

データ・AIの活用領域の広がり、DXとは、AIをどう使えばいいのか

第10回 ビッグデータとAIの関係性と社会の変化(4)

データ・AIの技術、その例としてチャットボットの実習

第11回 データやAIにまつわるセキュリティ

情報セキュリティの基礎、情報のCIA（機密性、完全性、可用性）、暗号化と匿名加工情報

第12回 ネット新時代に関する考察(1)

これまでの授業内容の中から各自のレポートのテーマを仮決定

第13回 ネット新時代に関する考察(2)

各自のレポートのテーマとこれまでの授業内容の関連を考える、情報収集とレポートの構成の確認

第14回 ネット新時代に関する考察(3)

「ネット新時代に関する考察」に関するレポートの提出と情報共有

第15回 まとめ確認テストの実施と解説

テキスト

はじめてのAIリテラシー 岡嶋裕史＋吉田雅裕 技術評論社

参考書・参考資料等

SNSって面白いの？ 草野真一 講談社

学生に対する評価

授業参加度（30%）、レポート（35%）、まとめテスト（35%）の総合点で評価する

授業科目名： SNSコミュニケーションスキル	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 神月 紀輔
		担当形態：単独	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業の到達目標及びテーマ インターネットやSNS(Social Network Service)の仕組みや内容を概観し，特性を理解しながら望ましいネットコミュニケーションのあり方を考え実践する。			
授業の概要 ・ SNSの特性を知る ・ ネット上でのコミュニケーションの方法を考えることができるようになる ・ ネット上のトラブル回避や，相談期間の使い方を知る ・ どのような機器になっても，コミュニケーションに必要な事柄を考えることができるようになる			
授業計画 第1回 オリエンテーション この授業の進め方 第2回 現在の青少年のネット利用 第3回 機器の発達とSNS 第4回 パソコン通信からインターネットへ 第5回 SNSの黎明期 電子掲示板（BBS） 第6回 電子メールとSNS，i-mode 第7回 SNSの躍進 Mixi 第8回 SNSの発展 Facebook Twitter 第9回 LINE Instagram TicTokなど 第10回 SNSコミュニケーションの特性 第11回 LINEマスターになろう 第12回 子供たちに指導するには 第13回 トラブルに巻き込まれたら 第14回 未来型SNS これからのSNS 第15回 まとめと自己評価			
テキスト			
参考書・参考資料等 杉原保志 ほか 著 SNSカウンセリングハンドブック 誠信書房			

天野彬 著 SNS変遷史 イースト新書 中野明 著

IT全史 祥伝社

Biglobe パソコン通信とは https://enjoy.sso.biglobe.ne.jp/archives/pc_communication/

LINE for Business LINE GreenBadge <https://www.linebiz.com/jp/partner/line-green-badge/>

学生に対する評価

授業を受ける態度（40%）：コメントなどの提出（内容も含む）

以前の自分と変わったかの自己評価（40%）：1回目と15回目にアンケートをとり、それを基に自己評価する

コミュニケーションを取ろうとする態度（20%）：この授業におけるオンラインでのコミュニケーションに参加しようとする姿勢を評価する

授業科目名： 情報・メディアの文化と リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鎌田 均
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業の到達目標及びテーマ			
本講義では、情報リテラシーを、様々なソーシャルメディア、情報サービスが内在するインターネットやテレビなどのメディア、そしてそこにある情報の文化を理解することを通して習得することを目指す。個人、組織、社会が直面する様々な問題を理解し、解決するために必要な情報源へのアクセス方法、インターネットなどから発信される情報の評価、地域、文化による情報流通の差異、情報を利用または発信する際の著作権などの法的制限、倫理などを学習する。これらの学習を通して、現代社会に参画するために必要な知識、能力を習得する。			
授業の概要			
情報、メディアの性質を理解する。			
情報を評価できる能力を習得する。			
情報を効果的に利用、発信できる能力を習得する。			
授業計画			
第1回 講義内容及び課題のプレビュー			
第2回 情報リテラシーと関連する「リテラシー」			
第3回 情報と人との関わり			
第4回 情報資源、情報メディアの種類と性質			
第5回 情報、メディアの評価			
第6回 インフォーマルな情報と社会			
第7回 フェイクニュースと「ポスト真実」の時代			
第8回 知識共有の新形態（ウィキペディアの分析と理解）			
第9回 参加型文化における情報			
第10回 情報発信、利用の倫理とルール：権利、プライバシーなどにおける諸問題			
第11回 ソーシャルメディアと「個人」の情報発信、情報発信のための諸技術			
第12回 データベース化する社会：ビッグデータがもたらす課題			
第13回 情報と地域性、格差などの諸問題：情報の越境、文化間の流通			
第14回 プレゼンテーション発表			
第15回 プレゼンテーション発表の講評と授業全体のまとめ			

テキスト
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 中間レポート（30％）、期末レポート：（40％）、プレゼンテーション発表（20％）、授業参加度（10％）で評価する。

授業科目名： AIとデータサイエンス 入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 北村 美穂子・金光 安芸子 担当形態： クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ デジタル社会で必須となる AI およびデータサイエンスに関する基礎的な知識や秘術を習得する。AI については、人間の知能とどう違うのかを主眼におき、コンピュータで言葉を扱う技術である自然言語処理を中心に AI 技術の基礎を学ぶ。一方、データサイエンスについては基礎的な統計の知識やデータを可視化する方法を学ぶ。身につけた知識を実習で体感できるよう、プログラミング実習も行う。			
授業の概要 ・ データサイエンスの基礎・概要を学ぶ ・ プログラミング言語を理解・習得する ・ AIリテラシーを学ぶ ・ 社会におけるAI・データサイエンスの役割を学び、デジタル社会を考察する			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 AIによる技術および社会の変化 第3回 データ活用のための基礎知識 第4回 データ活用のための技術(データ解析，非構造化データ) 第5回 第2回から第5回のまとめ（小テストおよび講評） 第6回 プログラミング言語概論 第7回 プログラミング実習（アートプログラミング） 第8回 AIの事例 自然言語処理(1)（形態素解析，構文解析） 第9回 AIの事例 自然言語処理(2)（意味解析，辞書とコーパス） 第10回 第6回から第9回のまとめ（小テストおよび講評，アートプログラミング作品発表） 第11回 データサイエンスの基礎 第12回 データビジュアライゼーション 第13回 機械学習とは 第14回 AIが社会に与える影響，データビジュアライゼーション作品発表 第15回 全体のまとめ（まとめのテストおよび講評、本授業の総括）			

テキスト

はじめてのAIリテラシー，岡嶋裕史・吉田雅裕，技術評論社

参考書・参考資料等

Wolfram|Alpha: <https://www.wolframalpha.com/>

Wolfram Programming Lab: <https://www.wolfram.com/programming-lab/>

学生に対する評価

授業参加度(30%)，レポート・課題(30%)，小テスト・まとめテスト(40%)の総合点で評価する．

授業科目名： AIとデータサイエンス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 北村 美穂子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
本授業は、AIとデータサイエンス入門での学びを応用・実践するためのデータ分析手法や機械学習の手法や応用事例を学ぶ。また、近年急速に発展した生成系AIに代表される深層学習の基礎技術も学び、社会における活用、その倫理的課題についても考える。 種々の手法については、実データ、実課題を用いた演習を行うことで、現実の課題へのアプローチ方法およびAIやデータサイエンスの適切な活用方法を学び、データによる意思決定やデータ活用によって新しい価値を提案できる力を身につける。			
授業の概要			
・ データ分析の基礎技術（データ収集、加工、データ可視化）を身につける。 ・ 基本的なデータ分析手法や機械学習の手法について理解し、活用できる力を身につける。 ・ AIやデータサイエンスを利活用する際の倫理的な課題について理解を深める。 ・ 深層学習の基礎技術を学び、社会への影響・課題について考える。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 社会におけるデータサイエンス・AI活用事例			
第3回 データの収集、加工・前処理			
第4回 データ分析手法 1（検定・相関）			
第5回 データ分析手法 2（可視化）			
第6回 AI概論（歴史、エキスパートシステム、フレーム問題）			
第7回 機械学習1（回帰）			
第8回 機械学習2（分類）			
第9回 機械学習3（クラスタリング）			
第10回 深層学習の基礎と利用			
第11回 AI応用1（自然言語処理（機械翻訳））			
第12回 AI応用2（自然言語処理（知識表現、質問応答））			
第13回 AI応用 3（画像処理（分類、人物判定））			
第14回 AI倫理（AIの社会的受容性・プライバシー保護、個人情報の取り扱い）			
第15回 全体のまとめ、課題レポート発表			

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

人工知能は人間を超えるか，松尾 豊，角川EPUB選書

Wolfram データサイエンスとAI: <https://www.wolfram.com/featureset/data-science/>

学生に対する評価

授業への参加度 50%（各回小テスト実施），課題レポート及び発表 50%

授業科目名： 情報処理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 伊藤 泰子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。 この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。			
授業の概要			
・ コンピュータの基礎知識 ・ インターネットの機能としくみ ・ 電子メールのコミュニケーション特性 ・ Webを利用した情報検索 ・ 情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解 ・ プログラミング入門 ・ 画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割 ・ HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性 ・ HTMLとCSSによるWebページ制作実習			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
・ 授業概要の説明 ・ 簡単なWebページ作成体験			
第2回 コンピュータの基礎知識			
・ メモリ、補助単位 ・ ハードウェア ・ ソフトウェア			
第3回 インターネットのできるこ			
・ インターネット上の機能（電子メール、Webページなど）の理解と利用 ・ 電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解			
第4回 データ・ファイル形式について			
・ メーリングリストの登録 ・ バイナリデータ、テキストデータのデータ形式と役割 ・ 画像形式の種類と特徴			

第5回 コマンドを利用したコンピュータ操作

- ・ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
- ・コマンド実習

第6回 Webページの批判的閲覧

- ・Webページを利用した情報検索

第7回 World Wide Webについて

- ・HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性

第8回 Webページ制作実習(1) HTML基本

- ・文書構造の定義

第9回 Webページ制作実習(2) HTML応用

- ・画像挿入
- ・リンク設定
- ・表作成など

第10回 Webページ制作実習(3) CSS基本

- ・文書構造要素に対するデザイン作成

第11回 Webページ制作実習(4) CSS応用

- ・IDやクラスを使った細かなデザイン作成

第12回 プログラミング実習

- ・JavaScriptを利用したプログラミング実習

第13回 Webページ課題作成(1)

- ・サイト企画

第14回 Webページ課題作成(2)

- ・コンテンツ、デザイン作成

第15回 課題提出とまとめ

- ・ファイル転送によるWebページの学内公開、
- ・まとめテスト、解答・解説

テキスト

改訂新版インターネット講座 吉田智子 他 北大路書房

参考書・参考資料等

<https://www.mirailogical.com/yito/nd/ipro.html>

学生に対する評価

授業参加度（30%）、レポート・課題（20%）、テスト（50%）の総合点で評価する。

授業科目名： プログラミング実践		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 北村 美穂子
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 情報システム（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 「プログラミング演習」や「アルゴリズム基礎」で学んだプログラミングの基礎知識を元に、自分が興味を持つ分野のデータを、効果的に可視化（ビジュアライゼーション）できるレベルのプログラミング力を身につけることを目標とする。				
授業の概要 ・ データの可視化の手法や複数の段階を学び、目的に応じた使い分けができるようになる ・ 利用するプログラミング言語の基本的な記述を習得する ・ プログラミングの開発工程（企画，設計，コーディング，試験）を実践する ・ プログラミングによるデータの可視化に挑戦する				
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 データの可視化の複数の段階（Excel利用、ツール利用、プログラミング利用） 第3回 ツールを使った可視化の実習 第4回 データ分析・可視化のためのプログラミング設計，作成手法 第5回 可視化に利用するプログラミング言語実習（サンプルプログラミング実習） 第6回 テーマおよびデータの調査，テーマの決定 第7回 企画案作成，発表 第8回 プログラミング設計（データ入手と準備） 第9回 プログラミング設計（設計と実装） 第10回 データ可視化プログラミング制作（企画調査） 第11回 データ可視化プログラミング制作（データの入手、整理） 第12回 データ可視化プログラミング制作（設計とコーディング） 第13回 データ可視化プログラミング制作（テストラン） 第14回 完成した作品のピアレビューと改善 第15回 作品発表会、確認テストとその講評				
テキスト 特に指定なし（担当教官が準備した講義テキストを利用する）				
参考書・参考資料等				

データビジュアライゼーションの教科書，藤 俊久仁・渡部 良一，秀和システム

学生に対する評価

参加積極性を考慮した授業参加度 30%，課題提出 50%，確認テスト 20%の総合点で評価する．

授業科目名： アルゴリズム基礎		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 北村 美穂子
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 情報システム（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ				
本授業では、コンピュータプログラミングでの基本的なアルゴリズム（ソート，探索，グラフ理論）や，実社会で使われているソフトウェアのアルゴリズムを学ぶことにより，自ら「問題を解決するための手順」を導くための思考法を身につけることを目標とする。				
授業の概要				
・ 「アルゴリズム」の本質（対象データと手順）を理解する ・ コンピュータアルゴリズムの基礎（ソート，探索，グラフ理論）を習得し，自ら実践する ・ 身近なツールやAI（人工知能）の分野で使われているアルゴリズムを学ぶ ・ 問題解決に役立つ思考法を習得する				
授業計画				
第1回 ガイダンス				
第2回 アルゴリズムとは				
第3回 アルゴリズムの記述方法				
第4回 アルゴリズムの作成 その1【実習・第1回課題提出】				
第5回 アルゴリズムとプログラミング				
第6回 アルゴリズムとデータ構造				
第7回 簡単なコンピュータアルゴリズム【実習】				
第8回 基本アルゴリズム1（ソート）				
第9回 基本アルゴリズム2（探索）				
第10回 基本アルゴリズム3（グラフ理論）				
第11回 アルゴリズムの作成 その1【実習・第2回課題提出】				
第12回 Web検索のアルゴリズム				
第13回 セキュリティのアルゴリズム				
第14回 人工知能とアルゴリズム				
第15回 確認テストとまとめ				
テキスト				
おうちで学べるアルゴリズムの基本，鈴木 浩一，翔泳社				

参考書・参考資料等

アルゴリズム図鑑，石田 保輝・宮崎 修一，翔泳社

学生に対する評価

参加積極性(respon 回答等)を考慮した授業参加度 30%，課題提出(2 回)50%，確認テスト 20%
の総合点で評価する。

授業科目名： プログラミング演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 伊藤 泰子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ プログラミングを通して、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していけるような、論理的・創造的な思考、及びプログラミング技術を養うことを目標とする。			
授業の概要 ・ 基本制御構造を理解 ・ イベントに対応したプログラムの作成 ・ 代表的なアルゴリズムの理解と評価 ・ コード記述式のプログラムの作成			
授業計画 第1回 ガイダンス ・ 授業概要の説明 ・ Scratch アカウントの作成など 第2回 Scratchの基本 ・ ステージ、スプライト、スクリプトとは ・ 「動き」「見た目」「音」ブロックの利用 第3回 プログラムの基本 1 ・ 「制御」ブロックの利用 ・ 繰り返し処理、分岐処理 第4回 プログラムの基本 2 ・ 「変数」ブロックの利用 第5回 イベント処理 ・ 「イベント」ブロックの利用 第6回 Scratchの応用 ・ ブロック定義、リストの利用 第7回 アルゴリズム 1 ・ サーチ（線形探索）、最大値最小値 第8回 アルゴリズム 2 ・ ソート（バブルソート、選択ソート、挿入ソート） 第9回 アルゴリズム 3 ・ ソート（シェルソート、クイックソート） ・ アルゴリズムの評価			

第10回 Webページ作成技術

- ・ HTMLとCSS

第11回 JavaScript 1

- ・ JavaScriptとは

第12回 JavaScript 2

- ・ 基本制御構造（順次、反復、選択）

第13回 JavaScript 3

- ・ イベントを利用したコードプログラミング

第14回 JavaScript 4

- ・ イベントを活用したプログラミング作成

第15回 JavaScript 5

- ・ JavaScript復習課題

テキスト

参考書・参考資料等

<https://www.mirailogical.com/yito/nd/prog/index.html>

学生に対する評価

授業参加度（40%）、課題（50%）、テスト（10%）の総合点で評価する。

授業科目名： 情報通信ネットワーク	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 安田 豊
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
現代的なコンピュータ・ネットワークの構成・要素技術について説明できること			
授業の概要			
インターネット、携帯(4G/LTE, 5G)をはじめとするネットワークサービスは現代の日常生活に不可欠なものとなった。本科目では日常的に利用する各種サービスを実現するための要素技術を取りあげ、その原理と仕組みについて解説する。			
授業計画			
第1回 データ化の手法（サンプリング・文字符号・フォーマット）			
第2回 ネットワークの構成要素（LAN/WAN・パケット・インターネット）			
第3回 プロトコル(1)（IP・アドレス・ルーティング）			
第4回 プロトコル(2)（階層化プロトコル・Ethernet・DNS）			
第5回 転送速度（bit/Byte・圧縮・誤り訂正）			
第6回 モバイル通信・WiFi（キャリア網・5G・遅延）			
第7回 サーバ・クライアント(1)（URL, HTTP, SSL/TLS）			
第8回 サーバ・クライアント(2)（メールアドレス, SMTP）			
第9回 セキュリティ(1)（ユーザID/パスワード・暗号化・電子署名）			
第10回 セキュリティ(2)（ファイアウォール・ウィルス対策ソフト）			
第11回 データベース(1)（RDB, KVS）			
第12回 データベース(2)（REST API, オープンデータ）			
第13回 オープンソース・ソフトウェア（ライセンス, GitHub）			
第14回 サービスシステム構成（仮想化技術・データセンター）			
第15回 サービスシステム構成（クラウド・コンピューティング）			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
最新情報I（萩谷昌己，実教出版）			
学生に対する評価			
毎回の演習で作成するレポートによる（100%）			

授業科目名： インタラクティブメディア演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 由良 泰人
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
インタラクティブメディアとは何かを知る。2D空間から3D空間における表現方法を習得する。インタラクティブコミュニケーションを活性化させる作品の制作に取り組み、その評価方法を知る。作品発表会を通して、他の学生の作品に触れ、今後の創作に関する意欲を高める。			
授業の概要			
以下の課題に沿って授業時間中に演習・実習を行う。			
1. インタラクティブメディアの定義を知り、社会での活用方法を探求する。			
2. インタラクティブメディアによる作品を制作する。			
3. 制作した作品の相互評価を行う。			
行った実習・演習に対しては、授業内で指示する方法を用いて評価を行う。なお、LMSを通して授業についてのコメントを収集し、授業中にフィードバックを行う。			
授業計画			
第1回 ガイダンス、インタラクティブメディアとは			
第2回 情報メディアとコンテンツ（社会での活用方法の探求）			
第3回 視覚表現の要素			
第4回 文字と画像			
第5回 映像メディア			
第6回 Webコンテンツによる情報表現			
第7回 制作する作品類似コンテンツの鑑賞			
第8回 制作する作品類似コンテンツの制作過程			
第9回～第11回 作品の制作実習			
第12回 完成した作品のグループでの相互評価と改善			
第13回 インタラクティブメディア作品の完成			
第14回 インタラクティブメディア作品の発表準備			
第15回 作品発表会と相互評価とフィードバック			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			

動画の文法（神井 護 技術評論社）、レイアウト. 基本の「き」（佐藤 直樹 グラフィック社）、なるほどデザイン 目で見えて楽しむ新しいデザインの本（筒井 美希 エムディエヌコーポレーション）

学生に対する評価

定期試験は実施しない。

作品の相互評価・自己評価（40％）、作品評価（40％）、相互評価など授業に取り組む態度（20％）

授業科目名： プレゼンテーション 概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 平野 美保
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
本科目は、実社会での各種メディアを活用したプレゼンテーションの方法論を把握し、現場で 応用するための素地を養うことを目的とする。			
授業の概要			
1. プレゼンテーションの型に関する基礎の習得 2. プレゼンテーションの事前準備に関する基礎の習得 3. 視覚資料作成に関する基礎の習得 4. 話す基礎技能の習得			
授業計画			
第1回 インTRODakション プレゼンテーションとは			
第2回 目的と聴衆分析 身近な例での演習			
第3回 【オンライン実施】企業と商品の研究 プレゼンテーションをする商品等に関する調査			
第4回 聴衆分析と型 企業の商品の報告と聴衆分析			
第5回 【オンライン実施】構成 プレゼンテーションの準備			
第6回 事前の準備 報告と事前の準備の方法の把握			
第7回 視覚物 パワーポイント・配布資料と報告			
第8回 【オンライン実施】視覚物の作成			
第9回 【オンライン実施】プレゼンテーションの準備			
第10回 非言語 望ましい方法の理解と実践練習			
第11回 プレゼンテーションのリハーサル①			

	プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互評価、本番に向けての準備
第12回	プレゼンテーションのリハーサル② プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互評価、最終調整
第13回	プレゼンテーション実践① 基礎技能の確認
第14回	プレゼンテーション実践② 応用技能の確認
第15回	プレゼンテーション実践③ 最終のプレゼンテーション
テキスト	
ビジネスプレゼンテーション 改訂版 武田秀子 実教出版	
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	
ワークシート 30%	
最終のプレゼンテーション 30%	
授業への参加／貢献 40%	

授業科目名： プレゼンテーション 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 平野 美保
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
ICTを活用した効果的なプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。			
授業の概要			
数多く実践練習をすることを通して、望ましいプレゼンテーション技法を身につける。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 プレゼンテーションの基礎の確認 プレゼンテーション技法に関するプレゼンテーション			
第3回 身体表現 プレゼンテーション（1）			
第4回 効果的なプレゼンテーションの技法			
第5回 【オンライン実施】プレゼンテーション（2） 準備、練習（イベント紹介）			
第6回 プレゼンテーション（2） 発表と振り返り（イベント紹介）			
第7回 【オンライン実施】プレゼンテーション（3）－① 準備、練習（部署内検討会）			
第8回 プレゼンテーション（3）－① プレゼンテーション（部署内検討会）			
第9回 【オンライン実施】プレゼンテーション（3）－② 準備、練習（上司へのプレゼンテーション）			
第10回 プレゼンテーション（3）－② 社内検討会と聴衆分析			
第11回 【オンライン実施】プレゼンテーション（3）－③ 社外プレゼンテーションの準備			
第12回 プレゼンテーション（3）－③ 社外プレゼンテーションリハーサル			
第13回 プレゼンテーション実践①			

基礎技能 第14回 プレゼンテーション実践② 応用技能 第15回 プレゼンテーション実践③ 最終のプレゼンテーション		
テキスト ビジネスプレゼンテーション（改訂版） 武田秀子 実教出版		
参考書・参考資料等		
学生に対する評価 評価は、最終のプレゼンテーション（30%）、授業参加度（40%）、レポート（30%）に基づいて総合的に行う。		

授業科目名： 情報メディアの活用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 西尾 純子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
学校図書館において必要な情報メディア活用能力を身につける。			
情報メディア活用能力の分野において、児童生徒を指導する能力を獲得する。			
授業の概要			
(1) 司書教諭として必要な各種メディアの現状、特性、活用等について学習する。			
(2) 関連法規、情報倫理等について学習する。			
(3) 課題に沿って自ら企画し、調べた結果を発表する。			
授業計画			
第1回 ガイダンスおよび情報メディアに関する基礎知識			
第2回 知識基盤社会と学校図書館			
(1) 情報メディアとは何か、歴史、知識基盤社会、生涯学習			
第3回 知識基盤社会と学校図書館			
(2) 学校教育における情報メディアの意義と活用			
第4回 情報メディアの特性と選択			
(1) 情報メディアの種類、特性			
第5回 情報メディアの特性と選択			
(2) 情報メディアの選択、機器や設備の管理			
第6回 情報メディアの教育利用			
(1) コンピュータ、ソフトウェア、周辺機器			
第7回 情報メディアの教育利用			
(2) 情報検索のしくみ、データベース検索、インターネット			
第8回 情報メディアの活用事例			
(1) 授業におけるコンテンツの活用			
第9回 情報メディアの活用事例			
(2) 授業における I C T の活用			
第10回 情報メディアの活用事例			
(3) 学校図書館Webサイトの活用			
第11回 情報メディアの活用事例			

(4) 特別な支援を要する児童生徒への活用	
第12回	情報メディアと児童生徒の保護・支援
(1) 情報メディアの活用と知的財産権	
第13回	情報メディアと児童生徒の保護・支援
(2) 情報モラルと個人情報保護	
第14回	情報メディアと児童生徒の保護・支援
(3) 情報メディアに関連するトラブルと対策	
第15回	総括
テキスト	
参考書・参考資料等	
情報メディアの活用 山本順一他 放送大学教育振興会	
学校図書館への研究アプローチ 日本図書館情報学会研究委員会編 勉誠出版	
学生に対する評価	
授業参加態度(30%)、発表(20%)、小テスト・レポート(50%)に基づいて総合的に行う。	
小テスト・レポートでは、授業で習得した知識・技術などを評価の対象とする。	

授業科目名： ICTビジネス論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 北村 美穂子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報と職業		
授業の到達目標及びテーマ			
近年進歩が著しく、ビジネスにも広く活用されているAIを中心に、ICTビジネス（特にネットビジネス）の基礎技術および最新知識を学ぶ。検索エンジンやSNSツール等を授業で取り上げ、その基礎技術や変遷を学び、未来の社会の姿を考える。 本授業を受けることで、IT技術をより身近に感じ、今なお進化するデジタル社会に必要な不可欠な知識や発想を身につけることができる。			
授業の概要			
・ ITに関する用語について、また、それが我々の生活にどのように結びついているのかを学ぶ ・ ITビジネスの基本的な特性と社会で普及している理由、社会的な課題について、具体例と関連づけて理解する ・ 身の回りの課題を発見し、AIを含むIT技術を活用して課題を解決する方法を提案し、議論する			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 ICT（情報通信技術）の歴史とビジネスの関係			
第3回 ICTビジネスを支える基盤技術 1（インターネット関連技術）			
第4回 ICTビジネスを支える基盤技術 2（AI関連技術）			
第5回 1回から 4 回までのまとめと確認テスト			
第6回 ネットビジネス概論			
第7回 ビジネスケース1（ポータルサイトビジネス）			
第8回 ビジネスケース2（eコマースビジネス）			
第9回 ビジネスケース3（SNSビジネス）			
第10回 6回から9回までのまとめと確認テスト			
第11回 Web3.0（分散型の次世代インターネット社会）概論			
第12回 Web3.0を支える技術（ブロックチェーン、メタバース）			
第13回 ICT技術、AIがもたらす今後の社会1（情報通信技術）			
第14回 ICT技術、AIがもたらす今後の社会2（AI関連技術）			
第15回 全体のまとめ、発表			

テキスト

特に指定しない（担当講師が作成したオリジナルの講義資料を利用する）

参考書・参考資料等

ネットビジネス進化論，尾原 和啓，NHK出版

学生に対する評価

授業への参加度 50%（確認テスト），課題レポート及び発表 50%

授業科目名： 社会情報インターンシ ップ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱中 倫秀
		担当形態：単独	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報と職業		
授業の到達目標及びテーマ			
就業体験を通して、自己の職業適性や社会の情報化について、社会情報課程で学んでいる領域を生かし、情報が社会で果たしている役割と将来設計について考える。その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び意欲を喚起し、主体的な職業選択が出来るようになる。			
授業の概要			
事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。 提出するレポートは下記の通り。 いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までにそれぞれ確実に提出すること。 1.実習前／実習先についての事前レポート 2.実習中／毎日記入する実習日誌 3.実習後／事後レポート			
授業計画			
第1回目 事前研修① インターンシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明 ＊日時・教室は4月実施予定のガイダンスにて説明する			
第2回目 事前研修② 実習先の研究成果についての発表・目標立案 ＊日時・教室は4月のガイダンスにて説明する			
第3回目 実習① 実習先にてオリエンテーション、自己紹介・目標の発表 実習先での就業体験			
第4回目 実習② 業界への理解（現場実習又はグループワーク） 実習先での就業体験			
第5回目 実習③ 職種への理解～基礎編（現場実習又はグループワーク） 実習先での就業体験			
第6回目 実習④ 職種への理解～応用編（現場実習又はグループワーク） 実習先での就業体験			

第7回目 | 実習⑤ 中間ふりかえり・グループ発表

実習先での就業体験

第8回目 | 実習⑥ 仕事における課題を考える（現場実習又はグループワーク）

実習先での就業体験

第9回目 | 実習⑦ 仕事における課題の解決策を考える（現場実習又はグループワーク）

実習先での就業体験

第10回目 | 実習⑧ 考えた解決策の実行（現場実習又はグループワーク）

実習先での就業体験

第11回目 | 実習⑨ 実行した内容の効果チェック（グループワーク）

実習先での就業体験

第12回目 | 実習⑩ 最終振り返り

実習先での就業体験

第13回目 | 事後研修①

実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明

第14回目 | 事後研修②

実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備

第15回目 | 成果発表会

学び得たことと今後の行動計画の発表

※日時・発表場所と方法は4月のガイダンスにて説明する

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

学生に対する評価

授業態度 85%（実習先の評価 60%、事前・事後研修および成果発表会の評価 25%）

レポート 15%（未提出者は評価対象外）で評価する。

※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。

授業科目名： 子供のネット安全教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 神月 紀輔、東郷 多津 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業の到達目標及びテーマ 子供たちのネット利用において、詐欺にあう、ネットいじめ、個人情報の流出など様々な問題が起きている。本科目では、京都府消費生活安全センターと協力し、特に消費者教育の観点から、子供自らが考えて安心してネットを利用できるよう、学校等での啓発プログラムを開発し、実践することを目標としている。			
授業の概要 ・現在起きているネットの安全使用に関する問題を知る。 ・子供たちにとって危険な状況を知る。 ・学校現場など状況に合わせた啓発プログラムを開発する。 ・開発したプログラムを実践する。 ・プログラムの実施に対してその評価を行い改善をする。 ・※の回は外部講師として、京都府消費生活安全センター相談員、大津市いじめ対策推進室所員、京都市内大学教員などの講演を予定している。			
授業計画 第1回 本講義を始めるにあたって（神月・東郷） 第2回 教育社会学から見た子供のネット利用（神月 オンライン）※ 第3回 京都府消費生活安全センターにおける子ども啓発（神月 オンライン）※ 第4回 子供のへの模擬指導と評価（東郷・神月） 第5回 小学校における子供への指導実習（東郷・神月） 第6回 児童館における子供への指導実習（東郷・神月） 第7回 こどもイベントでの指導実習（東郷・神月） 第8回 小学校児童館等における実習の評価、振り返り（東郷・神月） 第9回 デジタル・シティズンシップと学校における情報モラル指導（神月 オンライン） 第10回 京都府消費生活安全センターへの相談の現状（神月 オンライン）※ 第11回 他の自治体での取り組み（神月 オンライン）※ 第12回 保護者も含めた指導方法の開発（神月） 第13回 専門家による評価（神月）※ 第14回 今後の問題点討議（神月・東郷）			

第15回 まとめと自己評価（神月・東郷）
テキスト
参考書・参考資料等
学生に対する評価

原清治 著 ネットいじめの現在 ミネルヴァ書房

旺文社 編 学校では教えてくれない大切なこと 12 ネットのルール

NACS ICT委員会 編 ネット・SNSの危険から子供を守れ ぎょうせい

坂本旬 他 著 デジタル・シティズンシップ 大槻書店

授業参加度(50%)、毎時間のコメント(20%)、指導実習内容(30%) により総合的に評価を行う。

授業科目名： 情報教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 神月 紀輔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業の到達目標及びテーマ			
情報教育の目標である「情報活用能力の育成」について理解し、今後の生活に役立てるとともに、地域で指導できる人材の育成を目指す。			
情報機器や情報を活用した授業案の作成を行うことができ、授業実践ができる。			
授業の概要			
情報活用能力の3つの構成要素（情報活用の実践力・情報の科学的理解・情報社会に参画する態度の育成）に関して正しく理解し、社会で生かせるようにする。			
情報を活用した授業が、各教科だけでなく特別活動・総合的な学習の時間などでも実践できるようにする。			
AIやデータサイエンスの考え方や小学校におけるプログラミング教育の教育的意味を知り、教育活動に無理なく取り入れることができる指導者を目指す。			
授業計画			
第1回 講義オリエンテーション			
第2回 情報教育の目標および情報活用能力について			
第3回 情報教育の重要性と課題			
第4回 情報活用の実践力の現状と課題			
第5回 情報活用の実践力を育む教材（オンデマンド予定）			
第6回 学校現場における情報活用の実践力			
第7回 子供たちが情報活用能力を養うためのポイント			
第8回 小学校におけるプログラミング教育			
第9回 AIとデータサイエンスを取り入れる教育的意義（オンデマンド予定）			
第10回 情報社会に参画する態度とデジタルシティズンシップ			
第11回 授業支援ツールの活用方法（ロイロノート、Metamoji Classroom等）			
第12回 授業支援ツールを用いた授業設計と実践（オンデマンド予定）			
第13回 クラウドを用いた授業設計と注意すべき点			
第14回 情報を活用するということとは			
第15回 まとめ			

テキスト

高等学校学習指導要領解説 情報編 文部科学省 開隆堂出版

参考書・参考資料等

文部科学省 教育の情報化に関する手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

学生に対する評価

授業への参加意欲・態度（30%）

課題やレポートに対する自己評価・相互評価（40%）

期末レポート（30%）

授業科目名： 情報科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 神月 紀輔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
この講義では、学生が高等学校で指導する教員として、共通教科情報、具体的には情報Ⅰ、情報Ⅱの内容を理解し、指導すべき目標を学習指導要領から得る。そのため、高等学校における指導技術とともに、成長著しい情報の分野において生徒にとってその時代に的確な内容を指導できる知識と技術を得ることが到達目標となる。			
授業の概要			
学習指導要領解説をもとに、毎回この教科にとって大切にすべき点はどこにあるのか、トピックに合わせて講義を行う。ただ知識を得るだけでなく、高校生の立場に立って、高校生が主体的に教科情報での学習が進むように、毎回考えることが涵養となる。得意な分野以外でも高等学校教員として教えることのできる知識と方法を身につけていくことが求められる。			
授業計画			
1 オリエンテーション，教科情報設立の目的			
2 共通教科情報と専門教科情報の趣旨および要点			
3 情報活用能力と教科情報			
4 共通教科情報の科目編成と目標			
5 情報Ⅰの学習内容(1)情報社会の問題解決と教材研究			
6 情報Ⅰの学習内容(2)コミュニケーションと情報デザインと教材研究			
7 情報Ⅰの学習内容(3)コンピュータとプログラミングと教材研究			
8 情報Ⅰの学習内容(4)情報通信ネットワークとデータの活用と教材研究			
9 情報Ⅱの学習内容(1)情報社会の進展と情報技術と教材研究			
10 情報Ⅱの学習内容(2)コミュニケーションとコンテンツと教材研究			
11 情報Ⅱの学習内容(3)情報とデータサイエンスと教材研究			
12 情報Ⅱの学習内容(4)情報システムとプログラミングと教材研究			
13 情報Ⅱの学習内容(5)情報と情報技術を活用した問題発見・解決の研究と教材研究			
14 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い			
15 指導案作成とまとめ			

テキスト
文部科学省 高等学校学習指導要領解説 情報編 文部科学省 高等学校学習指導要領
参考書・参考資料等
授業内で指示する
学生に対する評価
授業ごとに行う小テストまたは授業ごとに行う内容をまとめた小レポート（70%）, 課題レポート3回（30%） の項目から総合的に評価を行う

授業科目名： 情報科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 神月 紀輔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ この講義においては、専門教科情報科の目的・理念・内容を理解することと、実際に授業が行われるよう模擬授業を通して学習指導の計画・実践を行うことにある。そのため、情報科学習指導案の作成や、機器やネットワークを使った授業実施に向けての取り組みを学生が自ら行う必要がある。			
授業の概要 共通教科情報科のみの理解ではなく、実際には高等学校によって設置される専門教科情報科の理解を進めることで、情報科全体の内容を把握する。そのうえで、生徒に向けてどのように発信していくかを考え、学習指導案を作成し実際に学生相手ではあるが模擬授業を行い指導技術の向上を図る。最後に、道徳教育・職業教育との関連も学び、実験や実習に配慮する態度も育成する。			
授業計画 1 オリエンテーション、共通教科情報の目的等を復習 2 専門教科情報科の目標と理念 3 専門教科情報科の内容構成 4 課題研究の目標と内容 5 情報Ⅰの学習指導計画作成および教材研究 6 情報Ⅰの学習指導（模擬授業） 7 情報Ⅰの学習指導のリフレクション 8 情報Ⅱの学習指導計画作成および教材研究 9 情報Ⅱの学習指導（模擬授業） 10 情報Ⅱの学習指導のリフレクション 11 専門教科情報科の課題研究の取り扱いと教材研究 12 専門教科情報科の学習指導（模擬授業） 13 専門教科情報科の学習指導のリフレクション 14 道徳教育・職業教育との関連と実験実習に対する配慮 15 総合討論・まとめ			

テキスト
高等学校学習指導要領解説 情報編 高等学校学習指導要領
参考書・参考資料等
授業中に指示をする
学生に対する評価
以下の授業内での成果物をもとに評価する ・ 学習指導計画・学習指導案 (30%) ・ 模擬授業に臨む態度 (20%) ・ 模擬授業に対する自己評価・相互評価 (20%) ・ 課題レポート (30%)

授業科目名： 環境教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤 真太郎
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
環境問題への対応が、人類の生存と繁栄にとって、緊急かつ重要な課題となる中、地球規模で捉える国際的な視野を持ち、自分たちの郷土に関する理解を深め、地域の活性化にも貢献できる「グローバル」な視点から環境に働き掛ける実践力を養うことが本科目の目標である。			
授業の概要			
・ 環境教育、ESD、SDGsとは何かについて理解する			
・ 京都の環境教育、ESDの取組について理解する。			
・ 学校における環境教育の現状や課題について考察する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 身の回りの環境を考えよう～タンポポから地域の環境を調べよう～ (フィールドワーク)			
第3回 身の回りの環境を考えよう～マツの気孔から環境問題を考えよう～ (実験・観察)			
第4回 環境教育、ESD、SDGsについて			
第5回 環境教育と自然災害について			
第6回 ESDの観点から、女性の視点を踏まえた避難所運営を考える (ディスカッション)			
第7回 SDGsについてのプレゼンテーション (SDGs1からSDGs4)			
第8回 SDGsについてのプレゼンテーション (SDGs5からSDGs 9)			
第9回 SDGsについてのプレゼンテーション (SDGs10からSDGs14)			
第10回 SDGsについてのプレゼンテーション (SDGs15からSDGs17)			
第11回 SDGsを考える教材への理解「新聞を使った授業」			
第12回 京エコミュージアムでの環境教育プログラムの参加「環境教育の取組について（講演）」			
第13回 京エコミュージアムでの環境教育プログラムの参加「館内の見学（館内案内ツアー）」			
第14回 京エコミュージアム見学のリフレクション＜対面＞			
第15回 総括（リフレクション）			

テキスト

参考書・参考資料等

大森亨（2004）「小学校環境教育実践試論」創風社，1-162.

藤岡達也（2007）「環境教育からみた自然災害・自然景観」協同出版，1－210.

学生に対する評価

SDGs についてのプレゼンテーション 30%、レポート 30%、授業時における活動の様子 30%、リフレクションの様子 10%で評価する。

授業科目名： 国際理解教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡辺 智美
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
国際理解教育の中で取りあげる人権・多文化・自文化などの内容を、子どもとの関わりから捉える。そして、国際社会の中で多様な価値観があり、それらを認識することを通して、国際理解教育への関心を高め、国際社会の中で共生・協働するための基礎的な素地を養う。			
授業の概要			
・ 多文化社会における文化理解と共生を学ぶ ・ グローバル社会におけるつながりと相互依存を理解する ・ 地球的課題における人権・環境・平和を理解する			
授業計画			
第1回 国際理解教育の意義) オリエンテーション 国際理解教育の歩みについて			
第2回 異文化やそれをもつ人々との交流と受容 世界の中の多様な文化について			
第3回 学びを深めるための様々な学習方法 参加型学習について			
第4回 小学校などにおける国際理解教育の実践 学校現場での実践について			
第5回 日本の伝統・文化 日本の伝統・文化について			
第6回 国際人としての自己の確立 国際人とは			
第7回 国際理解教育と学習モデル 国際理解教育の学習モデルについて			
第8回 帰国児童と多国籍の児童の教育 外国にルーツをもつ児童の教育について			
第9回 多文化の中での共生の意義 多文化共生とは			

第10回 イギリスの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育

イギリスの取り組みについて

第11回 ドイツ，フランスの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育

ドイツ，フランスの取り組みについて

第12回 アメリカ，中国の乳幼児教育・初等教育と国際理解教育

アメリカ，中国の取り組みについて

第13回 ユネスコの国際理解教育

ユネスコを中心とした国際理解教育について

第14回 国際理解教育における対話と場づくり

教育現場における実践について

第15回 これからの国際理解教育，まとめ

国際理解教育の可能性と展望について

テキスト

国際理解教育ハンドブック 日本国際理解教育学会 明石書店

参考書・参考資料等

学生に対する評価

評価は、授業への参加意欲・態度（50%），課題（50%）に基づいて，総合的に行う。

授業科目名： 道徳の指導法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石川 裕之
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ 道徳教育の理論や歴史を含む理論的側面と、具体的な授業の実践例や指導案の作成法を含む実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な知識を身につけることを目指す。時に「当たり前」や「あるべき姿」を一方向的に押し付けるものとして疎まれることもある道徳教育について、「道徳」とは何かという根本的な問いにまで遡りながら学んでいく。			
授業の概要 (1) 道徳教育に関する基礎理論や歴史について理解する。 (2) 中等学校における道徳教育の基本的な指導力が身につける。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 なぜ学校で道徳教育をおこなうのか (1) ー学校教育以前の道徳教育ー 第3回 なぜ学校で道徳教育をおこなうのか (2) ー学校教育以後の道徳教育ー 第4回 道徳教育の歴史 (1) ー戦前の道徳教育：近代国家の出発ー 第5回 道徳教育の歴史 (2) ー戦前の道徳教育：教育勅語と修身ー 第6回 道徳教育の歴史 (3) ー戦後の道徳教育：戦後教育改革と道徳教育ー 第7回 道徳教育の歴史 (4) ー戦後の道徳教育：道徳教育の質的变化ー 第8回 学校における道徳教育の目標と内容 第9回 教科としての道徳科の目標と内容 (1) ー位置づけと目標ー 第10回 教科としての道徳科の目標と内容 (2) ー学習プロセスー 第11回 教科としての道徳科の目標と内容 (3) ー扱う内容ー 第12回 教科としての道徳科の目標と内容 (4) ー道徳的価値と内容項目の関係ー 第13回 道徳科の授業と指導案の書き方 (1) ー基本的姿勢ー 第14回 道徳科の授業と指導案の書き方 (2) ー執筆方法ー 第15回 まとめ			
テキスト 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編』 文部科学省 教育出版 (2018年出版)			

参考書・参考資料等

学生に対する評価

- 授業への参加度（授業中の質問や応答、学生同士のディスカッション、模擬授業など授業への参加度と貢献度を評価する）：60%
- 提出物（学習指導案などの提出物を評価する）：40%

授業科目名： 介護等体験	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 矢島 雅子、太田 容次
			担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ 特別支援学校や社会福祉施設における介護等の体験を通じて、学生自らが個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図ることを目的としている。 また、障害のある児童生徒や、支援を必要としている人とのふれあいを通して、お互いを尊重し、思いやりの心を育み、共に生きる社会の原動力になれることを目指す。			
授業の概要 学生は特別支援学校や社会福祉施設において介助や学習・就労の支援等を行い、児童生徒や利用者と心の交流を深める。そして、1人ひとりと向き合い、相手の意思やニーズを理解する必要性を学ぶ。 事前指導では、肢体不自由者及び視覚障害者を想定した介助の体験を行い、介助方法を学ぶ。さらに法制度や事業内容を学び、介護等体験の内容について理解を深める。 事後指導では、体験で学んだことを振り返り、教師になる自覚を深める。授業は小グループによる討議も取り入れ、主体的に学ぶ工夫をする。			
授業計画 第1回：介護等体験の制度と趣旨、申込手続きについて 第2回：介護等体験にあたっての心構え（上級生の体験発表） 第3回：特別支援学校における介護等体験（ゲストスピーカーによる講義） 第4回：社会福祉施設における介護等体験（ゲストスピーカーによる講義） 第5回：アイマスクを使った体験、車椅子の介助方法 第6回：体験日誌の記入について 第7回：事前指導のまとめ 第8回：体験後の振り返り			
テキスト 全国特殊学校長編（2020）『特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア』 ジアース教育新社. 社会福祉法人全国社会福祉協議会編（2018）『第5版 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』社会福祉法人全国社会福祉協議会.			

参考書・参考資料等

東京都社会福祉協議会編（2012）『介護等体験マニュアルノート』東京都社会福祉協議会.
現代教師養成研究会編（2008）『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』東京大修館書店.
徳田克己・名川勝編（2002）『介護等体験の手引き』協同出版.

学生に対する評価

レポート（50％）、日誌（25％）、報告書（25％）に基づいて総合的に評価する。

※皆出席が条件

授業科目名： 憲法と人権	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 有坂 真太郎
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 日本国憲法		
授業の到達目標及びテーマ			
(1) 日本国憲法の特質や、日本国憲法が保障する基本的人権に関する知識を得る。また、そうした知識を説明できるようになる。 (2) 日本国憲法に関する知識を基礎として、目の前の政治的課題に対し、憲法的視点から判断ができるようになる。			
授業の概要			
日本国憲法を概説するが、特に日本国憲法が保障している国民の権利（基本的人権）をテーマとする。日本国憲法に関する基礎的知識（日本国憲法の成立過程とその原理）について解説した上で、日本国憲法の規定している基本的人権を概観していく。本講義を通し、日本国憲法の特質や、日本国憲法が保障する基本的人権に対する、学生の理解を深化させる。また、目の前の政治的課題に対し、憲法的な視点から判断できるようになることを目指す。			
授業計画			
第1回 講義ガイダンス			
講義の進め方や評価の方法など、本講義の基本的事項について説明する。			
第2回 憲法とはどのような法か			
日本国憲法を学習する上での前提となる、憲法がもつ意義・機能について概説する。			
第3回 日本国憲法の成立と基本原理			
日本国憲法の成立過程と、その基本原理を概説する。			
第4回 基本的人権・総論			
日本国憲法が保障する人権の種類や性質を概説する。			
第5回 人権論 (1) 精神的自由			
精神的自由として総称される、思想及び良心の自由、表現の自由、信教の自由について概説する。			
第6回 人権論 (2) 人身の自由			
人身の自由として総称される、奴隷的拘束・苦役からの自由、刑事手続における適正手続の保障、被疑者・被告人の権利について概説する。			
第7回 人権論 (3) 経済的自由			
経済的自由として総称される、財産権、職業選択の自由、移住・移転の自由について概説する。			

る。

第8回 人権論（4）社会権

社会権として総称される、生存権、教育を受ける権利、労働基本権について概説する。

第9回 人権論（5）法の下での平等

自由と並んで、人権保障の基礎をなす原理であり、日本国憲法の原則でもある、平等について概説する。

第10回 人権論（6）参政権、国務請求権

参政権、国務請求権について概説する。

第11回 人権論（7）幸福追求権

幸福追求権と、これを根拠として主張される「新しい人権」（環境権、プライバシー権など）について概説する。

第12回 統治機構論（1）国会

国会の地位および権能について概説する。

第13回 統治機構論（2）内閣

内閣の組織および権能について概説する。

第14回 統治機構論（3）裁判所

裁判所の組織および権能について概説する。）

第15回 まとめ

講義内容を振り返り、重要な論点を再確認する。

テキスト

『日本国憲法（NEXT教科書シリーズ）』 東裕・杉山幸一 共編 弘文堂

参考書・参考資料等

『憲法入門講義』 東裕 編 一藝社

学生に対する評価

成績評価は、定期試験の成績に基づいて行う。

授業科目名： 体育講義	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 高田 佳孝
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ			
「健康」について、心とからだの両面からの理解を深め、自らのからだを具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。またスポーツや体育の原理・原則について理解することを目標とする。			
授業の概要			
・ 現代の健康に関する問題について理解する。 ・ スポーツや運動の実践が身体・精神に与える影響について理解する。 ・ 日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。 ・ 発育発達と発達段階に応じたトレーニングについて理解する。			
授業計画			
第1回 現代生活における健康、スポーツ、学校体育の諸問題			
第2回 運動と健康			
第3回 健康と栄養（ウエイトコントロール）			
第4回 スポーツ、運動と心理（ストレス等）			
第5回 子どもの発育・発達と健康			
第6回 体育と指導者（コーチングとティーチング）			
第7回 スポーツとジェンダー、女性の健康			
第8回 まとめと解説			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
教養としての体育原理 友添秀則ほか 大修館書店			
学生に対する評価			
授業参加度、受講態度（20 点）まとめ（課題）（60 点）、小レポート（20 点）として総合評価を行う。			

授業科目名： 体育実技	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 野村 照夫、野村 晴美
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ			
スポーツの講義および実践「自分を育てる力」を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度「創造・発信力」を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても「知識・理解力」を深め、普段の生活に役立てることができる「思考・解決力」を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力「共生・協働する力」の向上も目指している。			
授業の概要			
1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。			
2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。			
3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。			
4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。			
5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。			
第2回 スポーツテスト			
文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。			
第3回 テニス：ストローク			
テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。			
第4回 テニス：サーブ			
テニスのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。			
第5回 テニス：ゲーム			
テニスのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるよう			

にする。

第6回 ウォーキング

ウォーキングの方法を理解し、実践する。それを健康づくりに役立てられるようにする。

第7回 バドミントン：ストローク

バドミントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し練習する。

第8回 バドミントン：サーブ

バドミントンのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。

第9回 バドミントン：ゲーム

バドミントンのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。

第10回 卓球：ストローク

卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。

第11回 卓球：サーブ

卓球のストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。

第12回 卓球：ゲーム、レポート課題

卓球のゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。

第13回 トレーニング方法

トレーニング機器の使い方を理解し、目的に応じたトレーニング方法を実践する。

第14回 コンディショニング：ストレッチとからだほぐし

トレーニングの後のストレッチや体ほぐしの方法を理解し、ボディメンテナンスの重要性を知る。

第15回 スポーツと健康

演習内容の振り返りとレポート課題のフィードバックを行う。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

必要に応じ、適宜資料を配付する。

学生に対する評価

受講態度・技能水準（70 点）、小レポート・レポート・課題（30 点）として総合的に評価する。全体に対して 15 回目にフィードバックする。

授業科目名： 健康スポーツ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村 照夫、野村 晴美 高田 佳孝
			担当形態： クラス分け・複数・単独
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ			
スポーツの講義および実践「自分を育てる力」を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度「創造・発信力」を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても「知識・理解力」を深め、普段の生活に役立てることができる「思考・解決力」を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力「共生・協働する力」の向上も目指している。			
授業の概要			
1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。			
2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。			
3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。			
4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。			
5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。			
第2回 スポーツテスト			
文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。			
第3回 テニス：ストローク			
テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。			
第4回 テニス：サーブ			
テニスのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。			
第5回 テニス：ゲーム			

テニスのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようになる。

第6回 ウォーキング

ウォーキングの方法を理解し、実践する。それを健康づくりに役立てられるようにする。

第7回 バドミントン：ストローク

バドミントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し練習する。

第8回 バドミントン：サーブ

バドミントンのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。

第9回 バドミントン：ゲーム

バドミントンのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようになる。

第10回 卓球：ストローク

卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。

第11回 卓球：サーブ

卓球のストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。

第12回 卓球：ゲーム、レポート課題

卓球のゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。

第13回 トレーニング方法

トレーニング機器の使い方を理解し、目的に応じたトレーニング方法を実践する。

第14回 コンディショニング：ストレッチとからだほぐし

トレーニングの後のストレッチや体ほぐしの方法を理解し、ボディメンテナンスの重要性を知る。

第15回 スポーツと健康

演習内容の振り返りとレポート課題のフィードバックを行う。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

必要に応じて資料を配布する。

学生に対する評価

受講態度・技能水準（60 点）、小レポート・レポート・課題（40 点）として総合的に評価す

る。全体に対して 15 回目にフィードバックする

授業科目名： 日常の英会話	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Eric Hail、Isobel Hook、 Nikan Sadehvandi 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ この授業は、学生のオーラルコミュニケーション能力の向上に重点を置く。また、リスニング、ライティング、リーディングの能力開発にも取り組み、特に、日常生活で必要とされる語彙力の強化や、構文の理解にも重点を置く。			
授業の概要 学生は、ペアやグループでの英語による様々な活動に参加することが求められる。授業では、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングにタスクが課される。スピーキング能力を向上させるために、学生は授業に積極的に参加し、課題を時間通りに完了させる必要がある。また、授業外学習として、ボキャブラリー・ノート（授業で使用した便利な単語や新しい表現を記録する。それぞれの単語や表現を使って、3つのユニークな文章を作る練習をする。次週の課題で必要と思われる語彙を準備しておく。）を毎回作成し、振り返りの課題（ホームワーク）をこなすことも求める。			
授業計画 第1回 授業紹介 授業の内容、教材、期待することを説明する。 第2回 この場面を想像してみよう フォーカス： 場面、物、場所、特徴について説明する。 トピック：人物や場所を描写する。 ホームワーク： 毎日の通学路の一場面について書く。 第3回 物を所定の位置に置く、違いを見分ける フォーカス： 絵の中の場所、量、特徴 トピック：家庭とスーパーマーケット ホームワーク： 1. 絵の中にある物の場所を書く。 2. 2つの画像の違いについて書く。 第4回 名前をつける フォーカス： 人の外見や性格の特徴について説明することができる。 トピック： 人とそのパーソナルスペースを識別し、説明する。 ホームワーク： 個人の性格の説明を書く。 第5回 ストーリーを正しく理解する フォーカス： 書かれたストーリーの特徴、トーン、読者を特定する。 トピック： カメとウサギ (The Tortoise and the Hare)			

ホームワーク：短編小説を書く。

第6回 復習、評価、振り返り

単語帳を参照しながら、前の週に行ったアクティビティを復習する。

短いクイズに答える。学習の進捗状況や目標について振り返る。

第7回 共通点を探す

フォーカス：個人情報聞いて伝える、他者との類似点を見つける

トピック：興味、趣味、才能、習慣、好き嫌い、過去の経験、夢など。

ホームワーク：クラスの人たちの共通点を書く。

第8回 母親

フォーカス：ストーリーの中の出来事の順序 トピック：他の人の家を訪問する

ホームワーク：電子メールを読み、返信する

第9回 犯人を捕まえる

フォーカス：テキストから情報を収集し、推論する トピック： ヒントから犯人を推理する

ホームワーク：犯罪の詳細な報告書を書く

第10回 ビデオを使ったストーリーテリング

フォーカス：出来事が起こっているときにそれを描写する トピック： テレビコマーシャル

ホームワーク：ビデオで見たものをすべて順番に説明する。

第11回 パズルを解き明かす

フォーカス：問題解決スキル トピック：パズルの解答を見つける

ホームワーク：他の生徒のためにパズルを書く

第12回 復習、評価、振り返り

前週に他の学生が作成したパズルを完成させる。

単語帳を参照しながら、前の週に行ったアクティビティを復習する。短いクイズに挑戦する。

学習の進捗と目標について振り返る。

第13回 人間関係を推測する

フォーカス：人々間の関係を推測する トピック：家系図と家族の集い

ホームワーク：物語を要約する

第14回 日本人の生活満足度

フォーカス：同じトピックに関する2つのテキストを比較する トピック：日本の生活満足度

ホームワーク：2つの調査の類似点と相違点について書く。

第15回 砂漠の島

フォーカス：交渉と提案 トピック：無人島に持っていくもの

ホームワーク：架空のサバイバルストーリーを書く

テキスト

Getting Things Done Book 2: Tasks for Connecting the Classroom with the Real World

田村 祐 編著/ Paul Wicking 編著/ 横山友里 著/ 松村昌紀 著/ 小林真実 著/ 加藤由崇 著
三修社

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

クラスアクティビティ 30%、リフレクション 10%、ボキャブラリーノート 20%、
ホームワーク 20%、中間テスト 10%、まとめ試験 10% を総合的に評価する。

シラバス：免許法施行規則第66条の6に定める科目

授業科目名： 旅行の英会話	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： Eric Hail
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
本授業では、外国への旅行に備え、旅行に関する基礎的な知識を学びながら、快適な異文化体験が送れるよう最低限必要な英会話力の習得を目指す。主に学生のオーラルコミュニケーション力の向上を目指す。が、それ以外に学生のリスニング力、ライティング力、リーディング力も統合的に扱いながら、世界のいろいろな国に関する知識の習得も図る。			
授業の概要			
授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、海外旅行に必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するよう、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。			
授業計画			
第1回：コース概要の説明と自己紹介			
第2回：Unit 1 これが搭乗券です			
第3回：Unit 2 どちらから来られましたか			
第4回：Unit 3 高級ホテルでの宿泊			
第5回：Unit 4 日帰り旅行を計画する			
第6回：Unit 5 次はシカゴです			
第7回：Unit 6 バッファローバーガー？			
第8回：Unit 7 オックスフォード散策			
第9回：Unit 8 ロンドンでの買い物			
第10回：Unit 9 パスポートがない！			
第11回：Unit 10 旅先の話を聞かせてください			
第12回：Unit 11 地元について話す			
第13回：Unit 12 旅慣れた旅行者になる			
第14回：Unit 13 オーストラリア特有の英語			
第15回：振り返りと実践のまとめ			
テキスト			
English Firsthand Success (5th Edition) Michael Rost Pearson Longman			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
授業内の英語及び積極的な発話度数 40%			
ライティング課題、授業内でのテストおよびプレゼンテーション 60%			

授業科目名： 留学の英会話	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Thomas Nishikawa 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
本授業では、海外での留学やホームステイに関する基礎的な知識を学びながら、海外におけるあらゆるシチュエーションに通じるよう必要な知識と英会話力の習得を目指す。主に学生のオーラルコミュニケーション力の向上を目指す。それ以外に学生のリスニング力、ライティング力、リーディング力も統合的に扱い、海外留学を成功させるために必要なスキルを身につける。			
授業の概要			
授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、留学やホームステイに必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまで会話を鍛錬する。			
授業計画			
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方、「スモールトーク」の導入、1週間のスケジュール、課題、授業方針、評価方法、教科書の紹介について説明する。			
第2回 ユニット1：スーツケースが重くて困っています 空港でのチェックイン／航空会社の手荷物規定			
第3回 ユニット2: 私は時差ボケに悩まされている 時差ぼけ／時差			
第4回 ユニット3: ホストファミリーはそれぞれ違う ホームステイ／ホストファミリーのルール			
第5回 ユニット 4: 私はカルチャーショックを受けている 文化の違い / カルチャーショックの段階			
第6回 ユニット 5: 寮がうるさいのですが 寮生活／提案・要望			
第7回 ユニット 6: 友達を作るにはどうしたらいいですか？ 友達を作る／海外での活動			
第8回 ユニット7：何について話すべき？ 人と話す / 会話のテーマ			

***授業内中間テスト

第9回 ユニット 8: ホームシックになった気分

日本が恋しい／ホームシックになったときの対処法

第10回 ユニット 9: 食べ物はどうやって注文するの?

レストランでの注文と支払い

第11回 ユニット 10: パスポートを紛失しました

物をなくす／貴重品について

第12回 ユニット 11: 病院に行く必要がある

病院やクリニックに行く / 健康相談

第13回 ユニット12: 帰りたくない

日本への帰国準備 / 海外に行くメリット

第14回 ユニット1~12の復習 実践

第15回 実践のまとめ、フィードバック、授業内最終試験

テキスト

Communicate Abroad: Essential English for Travel and Study Simon Cookson and Chih-iro Tajima National Geographic Learning

参考書・参考資料等

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

学生に対する評価

授業への参加状況（宿題を含む、授業態度、課題への取り組み状況）により総合的に評価する。

積極的な授業参加：20%、スモールトーク：10%、課題：20%、中間試験：20%、

期末試験（授業内）：30%

授業科目名： おもてなしの英会話	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Thomas Nishikawa、 Jodie Campbell、 Nikan Sadehvandi
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
ツーリズム、ホスピタリティ、旅行等のおもてなしの場面での英語の習得を目指す。授業では、旅行中、ホテル滞在中、外国にいるときに起こるさまざまな状況を取り上げる。観光関連の語彙を学び、実践的なコミュニケーションを体験することで、自信をつけ、英語力を向上させる。			
授業の概要			
学生は旅行代理店、ホテル、レストランなど観光産業で行われる会話や路上で旅行者を助けるための会話に必要なリスニング力および会話を、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまでペアおよびグループワークを通して英語のみで鍛錬する。			
授業計画			
第1回 イン트로ダクション：授業の進め方、「スモールトーク」の導入、週間スケジュール、課題、授業方針、評価方法、教科書の紹介について説明する。			
第2回 一期一会の旅：決断すること、アドバイスを聞くこと			
3回目 いくら持っていけばいい？：お金のやりくりと荷造りのアドバイス			
4回目 他の旅行者に会う：良い印象を与えるために			
第5回 チェックインとチェックアウト			
6回目 ルームサービス：室内でのサービス			
7回目 ホテルの施設です：ビジネスセンター、ゲームルーム			
8回目 朝食について：席に着く、卵を注文する			
***授業内中間テスト			
9回目 予約する：レストランの種類			
第10回 食事のマナー：ナイフとフォークの使い方			
第11回 電車に乗る：切符の買い方、座席の探し方			
第12回 レンタカーを借りる：レンタカーを借りる、車を返す			
第13回 クルーズに乗る：クルーズの種類と行き先			

第14回 病気やケガをしたとき：薬局に行くときと病院に行くとき

第15回 授業を通しての実践およびフィードバック、授業内最終試験

テキスト

On the Road: Tourism English for Travelers Andrew Crosthwaite Cengage Learning

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業への参加状況（宿題を含む、授業態度、課題への取り組み状況）により総合的に評価する。

積極的な授業参加：20%、スモールトーク：10%、課題：20%、中間試験：20%、

期末試験（授業内）：30%

授業科目名： ビジネス英会話		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Eric Hail
				担当形態：単独
科 目		施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ				
本授業では、さまざまなビジネスシーンを取り上げながら、それぞれの現場で最低限必要な語彙力と英会話力の習得を目指す。主に学生のオーラルコミュニケーション力の向上を目指す。それ以外に学生のリスニング力、ライティング力、リーディング力も統合的に扱う。				
授業の概要				
授業中、学生は教師、学習者同士の活動を通して、ビジネスシーンに必要なと思われるリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、ビジネスに関する話題について、応対したり、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関する語彙力、リスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。				
授業計画				
第1回：コース概要の説明				
第2回：Unit 1 就職活動				
第3回：Unit 2 面接				
第4回：Unit 3 会社の概要				
第5回：Unit 4 仕事の詳細				
第6回：Unit 5 会議を知らせるeメール				
第7回：Unit 6 空港への出迎え				
第8回：Unit 7 受付にて				
第9回：Unit 8 紹介と名刺交換				
第10回：Unit 9 会議場での挨拶				
第11回：Unit 10 プレゼンテーション				
第12回：Unit 11 交渉				
第13回：Unit 12 夕食のお誘い				
第14回：復習				
第15回：実践のまとめ				
テキスト				
American Headway 1 - Third Edition Liz and John Soars Oxford University Press				
参考書・参考資料等				
特記事項なし				
学生に対する評価				
授業内の英語及び積極的な発話度数 40%				
ライティング課題、授業内でのテストおよびプレゼンテーション 40%				
ビジネスに関する語彙テスト 20%				

授業科目名： 英語実践（４技能）Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Isobel Hook、 Jodie Campbell、 Nikan Sadehvandi 担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
英語コミュニケーションにおける4技能のさらなる活用を促進し、実践することを目的とする。インプットとアウトプットのバランスを取りながら、時間をかけて実践的な英語力の向上を目指す。			
授業の概要			
各回におけるトピックスについて、会話、インタビュー、ショートビデオ、ゲーム、アクティビティ、先生やクラスメイトによる生の英会話など、様々なインプットとアウトプットの実践を行い、以下の内容を理解する。			
1) 英語はコミュニケーションのための道具であり、定期的かつ継続的に英語を使う努力をすることが、測定可能な利益をもたらし、さらなる語学学習への前向きな姿勢につながることを理解する			
2) 使用語彙が増え、伝えたいことを効果的に表すために正しい文法を使うことが必要であることを十分に理解するようになる。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
授業内容の紹介。アイスブレイキングを行い、各自の目標について話し合う。			
第2回 四季について：好き嫌い、季節の移り変わり、季節の行事や習慣			
第3回 学校生活：学習習慣、友人関係、目標、苦労したこと			
第4回 スポーツ：部活動、スポーツの趣味、スポーツ観戦			
第5回 国内旅行：個人的な体験、興味深い場所、観光、インバウンド			
第6回 友達：友達を作る、関係を維持する、友達の輪、活動や興味			
第7回 趣味：趣味の重要性、趣味のエピソード、趣味に費やす時間、趣味の生産性			
第8回 パートタイムの仕事：賃金、働き方、経験、大学生活とアルバイトの関わり方			
第9回 食べ物：食習慣、好きな食べ物、食文化、料理			
第10回 テレビ・映画：視聴習慣、ストリーミングサービス、影響力のあるメディア、ストーリーテリングにおける文化の違い			
第11回 健康：身体と精神、運動と食事の重要性、良いストレスと悪いストレス、個人差			
第12回 未来：個人の将来の目標、社会の動向、世代間の違い、将来に対する希望や不安			

第13回 音楽：個人の将来の目標、社会の動向、世代間の違い、将来に対する希望や不安

第14回 ソーシャル・メディア：利用習慣

第15回 振り返りと最終課題：何が達成されたか、どのようなスキルがもっと必要なのか。最終評価の準備と発表。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

Reading practice- <https://www.newslevels.com/>

Reading practice - <http://www.cdlponline.org/>

Listening practice - ELLLO ? <http://elllo.org/>

Listening practice - Lyrics Training - <https://lyricstraining.com/>

学生に対する評価

授業時間内外での英語力向上への取り組みを総合的に評価します。

授業参加度 50%、ライティング課題 25%、スピーキング・インタビュー 25%

授業科目名： 英語実践（４技能）Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Isobel Hook、 Jodie Campbell、 Nikan Sadehvandi 担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
英語コミュニケーションにおける4技能のさらなる活用を促進し、実践することを目的とする。インプットとアウトプットのバランスを取りながら、時間をかけて実践的な英語力の向上を目指す。			
授業の概要			
各回におけるトピックスについて、会話、インタビュー、ショートビデオ、ゲーム、アクティビティ、先生やクラスメイトによる生の英会話など、様々なインプットとアウトプットの実践を行い、以下の内容を理解する。			
1) 英語はコミュニケーションのための道具であり、定期的かつ継続的に英語を使う努力をすることが、測定可能な利益をもたらし、さらなる語学学習への前向きな姿勢につながることを理解する			
2) 使用語彙が増え、伝えたいことを効果的に表すために正しい文法を使うことが必要であることを十分に理解するようになる。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
授業内容の紹介。アイスブレイキングを行い、各自の目標について話し合う。			
第2回 夏： 夏休み、夏の理想的なアクティビティなど。			
3回目 観光： 観光に関する個人的な体験、インバウンドのメリットや問題点など。			
4回目 モチベーション： モチベーションとは何か、モチベーションはどのように維持されるのか、など。			
5回目 祭： 祭を取り巻く習慣、地域社会における祭りの重要性、異なる文化圏における祭りの共通点やユニークな点など			
第6回 学習： 「なぜ勉強するのか」、「勉強の習慣」、「生涯学習」、「知識の共有」			
第7回 コンピューター： 使い方、スキル、習慣。進化するテクノロジーとAI。			
第8回 言語学習： 言語学習そのものについて、一般的な議論や、生徒が共有したい、もっと知りたい学習の側面について			
第9回 YouTubeチャンネル： あなたは何を見ますか？何を見るか、何を勧めるか？			
第10回 ショッピング： ショッピングの習慣、ショッピングの場所、オンラインと実店舗、など。			

第11回 休日：日本や世界の祝日に関わる意味や習慣

第12回 自分の将来設計： 新年や近い将来の夢や目標、それを達成するための方法について

第13回 時事問題（日本）：今起きていること、ニュースを読む習慣、ニュースメディアについて

第14回 時事問題（グローバル）：今起きていること、ニュースを読む習慣やニュースメディアについて。

第15回 振り返りと最終課題： 何が達成されたか、どのようなスキルがもっと必要なのか。最終評価の準備と発表。

テキスト

参考書・参考資料等

Reading practice- <https://www.newslevels.com/>

Reading practice - <http://www.cdlponline.org/>

Listening practice - ELLLO ? <http://elllo.org/>

Listening practice - Lyrics Training - <https://lyricstraining.com/>

学生に対する評価

授業時間内外での英語力向上への取り組みを総合的に評価します。

授業参加度 50%、ライティング課題 25%、スピーキング・インタビュー 25%

授業科目名： AIとデータサイエンス 入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 北村 美穂子・金光 安芸子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ デジタル社会で必須となる AI およびデータサイエンスに関する基礎的な知識や秘術を習得する。AI については、人間の知能とどう違うのかを主眼におき、コンピュータで言葉を扱う技術である自然言語処理を中心に AI 技術の基礎を学ぶ。一方、データサイエンスについては基礎的な統計の知識やデータを可視化する方法を学ぶ。身につけた知識を実習で体感できるよう、プログラミング実習も行う。			
授業の概要 ・ データサイエンスの基礎・概要を学ぶ ・ プログラミング言語を理解・習得する ・ AIリテラシーを学ぶ ・ 社会におけるAI・データサイエンスの役割を学び、デジタル社会を考察する			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 AIによる技術および社会の変化 第3回 データ活用のための基礎知識 第4回 データ活用のための技術(データ解析，非構造化データ) 第5回 第2回から第5回のまとめ（小テストおよび講評） 第6回 プログラミング言語概論 第7回 プログラミング実習（アートプログラミング） 第8回 AIの事例 自然言語処理(1)（形態素解析，構文解析） 第9回 AIの事例 自然言語処理(2)（意味解析，辞書とコーパス） 第10回 第6回から第9回のまとめ（小テストおよび講評，アートプログラミング作品発表） 第11回 データサイエンスの基礎 第12回 データビジュアライゼーション 第13回 機械学習とは 第14回 AIが社会に与える影響，データビジュアライゼーション作品発表 第15回 全体のまとめ（まとめのテストおよび講評、本授業の総括）			

テキスト
はじめてのAIリテラシー，岡嶋裕史・吉田雅裕，技術評論社
参考書・参考資料等
Wolfram Alpha: https://www.wolframalpha.com/
Wolfram Programming Lab: https://www.wolfram.com/programming-lab/
学生に対する評価
授業参加度(30%)，レポート・課題(30%)，小テスト・まとめテスト(40%)の総合点で評価する.

授業科目名： 情報演習 I a	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 吉田 智子、大谷 俊郎、 北村 美穂子
			担当形態： クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・ 情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ			
コンピュータシステムの基本的な操作（電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要となる基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。			
授業の概要			
・ 情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護） ・ 図書館の利用法・文献探索・データベース活用法 ・ 情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解 ・ 大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解 ・ 研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用 ・ タッチタイピングの習得 ・ 論文作成のための日本語文書作成 ・ 論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用 ・ 論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用 ・ ファイルの拡張子に関して・ファイルの管理・フォルダの概念の理解			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
ガイダンス、ファイルの拡張子について、E-Mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習			
第2回 コンピュータ環境の利用			
OSの理解、フォルダとファイルの管理、ファイルの拡張子に関する理解、入力の基礎、情報検索			
第3回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用			

本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用法など） 第4回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1) Wordについて、基本的な文書を作成しよう 第5回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2) 図や表を挿入しよう 第6回 表計算ソフトの基本操作(1) Excelについて、データを入力しよう 第7回 表計算ソフトの基本操作(2) 表を作成しよう（罫線の設定、数式の入力、関数の入力、他） 第8回 表計算ソフトの基本操作(3) 表を印刷しよう（用紙の設定、ヘッダーとフッターの設定、他） 第9回 表計算ソフトの基本操作(4) グラフを作成しよう（グラフの機能、グラフの作成、他） 第10回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1) PowerPointについて、プレゼンテーションを作成しよう 第11回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2) オブジェクトを挿入しよう（図形の作成、画像の挿入、表の作成、他）、プレゼンテーションの構成を変更しよう 第12回 プレゼンテーションソフトの基本操作(3) プレゼンテーションに動きを設定しよう（アニメーションの設定）、プレゼンテーションを印刷しよう 第13回 日本語文書作成ソフトの基本操作(3) 長文のレポートを編集しよう 第14回 日本語文書作成ソフトの基本操作(4) 文章を校閲しよう、タッチタイピングの確認と総復習 第15回 Word実技確認テストとまとめ 【最終課題】としての実技確認テストの実施、終了後に講評	
テキスト	『情報リテラシー アプリ編＜改訂版＞（Windows 10／Office 2019対応）』 富士通エフ・オー・エム FOM出版
参考書・参考資料等	
特になし	
学生に対する評価	通常課題の提出を中心とした授業参加度を「60%」、【最終課題】を含むテストとしての提出物を「40%」とした総合点で評価する。

授業科目名： 情報演習Ⅰb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉田 智子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・ 情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ			
コンピュータシステムの基本的な操作（電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。 学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。			
授業の概要			
・ 情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護） ・ 図書館の利用法・文献探索・データベース活用法 ・ 情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解 ・ 大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解 ・ 研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用 ・ タッチタイピングの習得 ・ 論文作成のための日本語文書作成 ・ 論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用 ・ 論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用 ・ ファイルの拡張子に関して・ファイルの管理・フォルダの概念の理解			
このクラスは第1回目のみ対面授業を実施するが、それ以降は、オンライン授業（オンデマンド方式）での授業を実施する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス【対面授業】			
ガイダンス、ファイルの拡張子について、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習			
第2回 コンピュータ環境の利用【オンデマンド】			

OSの理解、フォルダとファイルの管理、ファイル管理、入力の基礎、情報検索	
第3回	大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用【オンデマンド】 本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用法など）
第4回	日本語文書作成ソフトの基本操作(1)【オンデマンド】 Wordについて、基本的な文書を作成しよう
第5回	日本語文書作成ソフトの基本操作(2)【オンデマンド】 図や表を挿入しよう
第6回	表計算ソフトの基本操作(1)【オンデマンド】 Excelについて、データを入力しよう
第7回	表計算ソフトの基本操作(2)【オンデマンド】 表を作成しよう（罫線の設定、数式の入力、関数の入力、他）
第8回	表計算ソフトの基本操作(3)【オンデマンド】 表を印刷しよう（用紙の設定、ヘッダーとフッターの設定、他）、PDFフォーマットで保存しよう
第9回	表計算ソフトの基本操作(4)【オンデマンド】 グラフを作成しよう（グラフの機能、グラフの作成、他）
第10回	プレゼンテーションソフトの基本操作(1)【オンデマンド】 PowerPointについて、プレゼンテーションを作成しよう
第11回	プレゼンテーションソフトの基本操作(2)【オンデマンド】 オブジェクトを挿入しよう（図形の作成、画像の挿入、表の作成、他）、プレゼンテーションの構成を変更しよう
第12回	プレゼンテーションソフトの基本操作(3)【オンデマンド】 プレゼンテーションに動きを設定しよう（アニメーションの設定）、プレゼンテーションを印刷しよう、PDFフォーマットで保存しよう
第13回	日本語文書作成ソフトの基本操作(3)【オンデマンド】 長文のレポートを編集しよう
第14回	日本語文書作成ソフトの基本操作(4)【オンデマンド】 文章を校閲しよう、タッチタイピングの確認と総復習
第15回	実技確認テストとまとめ【オンデマンド】 実技確認テストとしての【最終課題】の実施とmanabaでの提出。終了後にmanabaで講評
テキスト	
『情報リテラシー アプリ編＜改訂版＞（Windows 10／Office 2019対応）』 富士通エフ・オー・エム FOM出版	
参考書・参考資料等	
特になし	

学生に対する評価

通常課題の提出を中心とした授業参加度を「70%」、【最終課題】を含むテストとしての提出物を「30%」とした総合点で評価する。

授業科目名： 情報演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大谷 俊郎、伊藤 泰子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・ 情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ			
大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得する。今後の学生生活・社会生活において、適切なツールを的確かつ効率よく使いこなせる技術・能力を習得することを目標とする。			
授業の概要			
以下の操作の応用スキル（研究活動、社会人として活用できるレベル）を習得する。 ・ 日本語文書ソフト ・ 表計算ソフト（表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析） ・ プレゼンテーションソフト ・ ソフトとソフト間の相互利用			
授業計画			
第1回 ガイダンス、日本語文書作成ソフトの基本操作 PC操作スキルの確認、文書作成基本操作の確認など			
第2回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1) 表現力をアップする機能、長文レポートの編集など			
第3回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2) 文書の校閲、目次作成など			
第4回 日本語文書作成ソフト総復習 日本語文書作成ソフトの機能確認、ビジネス文書作成など			
第5回 プレゼンテーションソフトの基本操作 スライドの基本的な作成方法など			
第6回 プレゼンテーションソフトの応用操作 役立つ機能などの応用的な使い方			
第7回 プレゼンテーションソフト総復習 プレゼンテーションの流れ、 【課題：PowerPoint文書】の作成と提出			
第8回 表計算ソフトの基本操作 データの入力、表の編集、グラフの作成など			

第9回 表計算ソフトの応用操作(1)

表の印刷、編集、複数シート操作など

第10回 表計算ソフトの応用操作(2)

関数の利用など

【課題：Excel文書1】の作成と提出

第11回 表計算ソフトの応用操作(3)

ユーザー定義の表示形式、条件付き書式など

第12回 表計算ソフトの応用操作(4)

データベースの操作、活用など

第13回 表計算ソフトを利用したデータ分析

高度なグラフ作成、ピボットテーブルの作成など

【課題：Excel文書2】の作成・提出

第14回 表計算ソフトの総復習

総復習

第15回 実技確認テストとまとめ

【最終課題】の作成・提出 提出後に講評

テキスト

情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10/Office 2019対応)

富士通エフ・オー

・エム FOM出版

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業参加度・授業態度（復習問題の提出、授業への取り組み姿勢を含む）（50%）、
課題（50%）の総合点で評価する。

授業科目名： 情報処理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 泰子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・ 情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ			
インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。			
この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。			
授業の概要 以下の内容を学ぶ。			
・ コンピュータの基礎知識 ・ インターネットの機能としくみ ・ 電子メールのコミュニケーション特性 ・ Webを利用した情報検索 ・ 情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解 ・ プログラミング入門 ・ 画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割 ・ HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性 ・ HTMLとCSSによるWebページ制作実習			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
・ 授業概要の説明 ・ 簡単なWebページ作成体験			
第2回 コンピュータの基礎知識			
・ メモリ、補助単位 ・ ハードウェア ・ ソフトウェア			
第3回 インターネットのできるこ			
・ インターネット上の機能（電子メール、Webページなど）の理解と利用 ・ 電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解			
第4回 データ・ファイル形式について			

- ・メーリングリストの登録
- ・バイナリデータ、テキストデータのデータ形式と役割
- ・画像形式の種類と特徴

第5回 コマンドを利用したコンピュータ操作

- ・ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
- ・コマンド実習

第6回 Webページの批判的閲覧

- ・Webページを利用した情報検索

第7回 World Wide Webについて

- ・HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性

第8回 Webページ制作実習(1) HTML基本

- ・文書構造の定義

第9回 Webページ制作実習(2) HTML応用

- ・画像挿入
- ・リンク設定
- ・表作成など

第10回 Webページ制作実習(3) CSS基本

- ・文書構造要素に対するデザイン作成

第11回 Webページ制作実習(4) CSS応用

- ・IDやクラスを使った細かなデザイン作成

第12回 プログラミング実習

- ・JavaScriptを利用したプログラミング実習

第13回 Webページ課題作成(1)

- ・サイト企画

第14回 Webページ課題作成(2)

- ・コンテンツ、デザイン作成

第15回 課題提出とまとめ

- ・ファイル転送によるWebページの学内公開
- ・まとめテスト、解答・解説

テキスト

改訂新版インターネット講座 吉田智子 他 北大路書房

参考書・参考資料等

学生に対する評価

授業参加度（30%）、レポート・課題（20%）、テスト（50%）の総合点で評価する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 田中 裕喜
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
教育の理念、教育に関する歴史や思想を理解するとともに、21世紀の変動する社会において教育に携わる者に必要となる物事の見方や課題意識を養う。			
授業の概要			
教育の基盤にある哲学や思想について学ぶ。			
学校教育の歴史について学ぶ。			
教育の現代的課題について学ぶ。			
自分自身の学校観、授業観、教師観を編み直す。			
授業計画			
第1回 教育とは何のために			
第2回 子どもへのまなざしの変化と教育学のはじまり			
第3回 子どもとはどんな存在か			
第4回 教師とはどんな存在か			
第5回 家庭生活の意味と課題			
第6回 学校生活の意味と課題			
第7回 社会教育の歴史			
第8回 欧米の学校教育の歴史			
第9回 日本の学校教育の歴史			
第10回 家庭教育の思想			
第11回 近代の学校教育の思想			
第12回 現代の学校教育の思想			
第13回 変動する社会と教育の課題			
第14回 生涯学習と社会教育			
第15回 教師の専門的成長			
テキスト			
参考書・参考資料等			
『教育思想史』今井康雄編 有斐閣			

学生に対する評価

ミニレポートの内容(50%)と定期試験に替わるレポートの内容(50%)にもとづいて評価する。

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石川 裕之
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理論に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
本科目は、教職課程「教育の基礎的理解に関する科目」として、教育を支える理念、教育の歴史および思想について学ぶことを目的としており、特に歴史的事項を重点的に扱う。「歴史は現代への問いである」という言葉が示すように、教育史を学ぶ第一の意義は歴史を通じて現代の教育をより深く認識することにある。本授業では、西洋と日本における教育の歴史の変遷およびその背景に関する基礎的知識を身につけ、歴史的な視座から教育の基本概念について理解できるようにする。また、古来より家族や社会において営まれてきた教育と学校教育との歴史的関係性について学ぶことを通じ、教育という営みに対する視野を広げることを目指す。			
授業の概要			
(1) 東西の教育史に関する基礎的な知識を獲得する。 (2) 現代の教育の歴史的な位置づけについて理解する。			
授業計画			
第1回 教育制度の成立と展開 (1) ー人類の誕生と教育ー			
第2回 教育制度の成立と展開 (2) ー教育の起源ー			
第3回 教育制度の成立と展開 (3) ー中世の教育ー			
第4回 教育制度の成立と展開 (4) ー近代公教育の誕生ー			
第5回 到達度テスト (1)、西洋教育史 (1) ーコメニウスの教育思想ー			
第6回 教育思想の歴史 (2) ーロックの教育思想ー			
第7回 教育思想の歴史 (3) ールソーの教育思想ー			
第8回 教育思想の歴史 (4) ーペスタロッチ・フレーベルの教育思想ー			
第9回 教育思想の歴史 (5) ーデューイの教育思想ー			
第10回 教育思想の歴史 (6) ー経験主義と教育実践の歴史ー			
第11回 到達度テスト (2)、日本教育史 (1) ー近世の子どもと教育ー			
第12回 日本教育史 (2) ー近代公教育の導入と日本的特徴ー			
第13回 日本教育史 (3) ー近代の教員養成制度の導入と展開ー			
第14回 到達度テスト (3)、教育の過去と未来			
第15回 まとめ			

テキスト

参考書・参考資料等

岩下誠・三時眞貴子・倉石一郎・姉川雄大『問いからはじめる教育史』有斐閣、2020年
今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年

学生に対する評価

1. 単元別到達度テスト：45%（各単元で学習した内容全体を出題範囲とする）
2. 提出物：30%（毎回授業の最後に理解度を問うコメントシートを提出させる）
3. 授業態度：25%（授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する）

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 河佐 英俊
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。			
授業の概要			
1.我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解学校教育の現状と課題を理解する。			
2.教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解教員の職務や求められる教員の資質を理解する。			
3.教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。			
4.学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。			
授業計画			
第1回 公教育の目的と教職を考えることの意義			
第2回 教職の職業的特徴と進路選択			
第3回 教職への進路 「教員養成と教員免許制度」			
第4回 今日の教員に求められる役割			
第5回 教員に求められる基礎的な資質・能力			
第6回 教員の職務の全体像			
第7回 教育公務員としての教師①「服務上・身分上の義務及び身分保障」			
第8回 教育公務員としての教師② 「規範意識の確立とコンプライアンス」			
第9回 教員研修の意義と制度上の位置づけ			
第10回 学び続ける教師			
第11回 学校運営への対応 「学校内外の専門家等との連携」			
第12回 学校、家庭、地域の連携と教員のかかわり			
第13回 チーム学校としての組織的な対応			
第14回 変わりゆく社会の中での学校と教師			
第15回 理想としての教師像と自己の課題			
定期試験			

テキスト

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編 文部科学省

中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編 文部科学省

高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）総則編 文部科学省

現代教育概論 佐藤晴雄 学陽書房

学生に対する評価

評価は、授業参加度(20%)、小レポート（30%）、定期試験(50%)に基づいて総合的に行う。

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原 清治
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
到達目標			
1．教育と社会の因果関係について理解できる。			
2．実証的な調査データにもとづいて分析する方法論を身につける。			
3．現状を正確に理解した上で、それをどのような方向へ転換すればよいのかの視点を身につける。			
授業テーマ			
社会変動と学校教育の諸相との関連を読み解く			
授業の概要			
高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し社会の平等化を推進したが、その反面、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生み出してしまった。それを解決するための施策が、ここ数年にわたって、教育改革として次々に展開されている。また、いじめや不登校のような問題を未然に防ぐためには、学校の安心安全を確保し、地域との連携を進める必要がある。			
本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層と教育」「若年未就労者と教育」などである。			
授業計画			
第1回：教育社会学とは何かー社会変動と学校教育の関連を考えるー			
第2回：社会変動と教育の関係ー学習指導要領の改訂などにみる学校教育システムの変化と教育の現代的課題との関係をみるー			
第3回：不測の事態、事故、災害等における問題のとりえ方 ー子どもたちの安全を確保するための学校での危機管理・安全教育ー			
第4回：学校病理としてのいじめ問題とそのとりえ方 ーいじめの危機管理ー			
第5回：いじめの現代的特質 ー学校安全の観点からー			
第6回：「学力低下」論の構造			
第7回：学力低下の国際比較とその実態			

第8回：「学力低下」論の諸類型と解釈をめぐって

第9回：若年就労（フリーター・ニート）問題とその背景

第10回：どのような若者が「使い捨てられる」のかー学校階層別にみる若年就労者の背景ー

第11回：若年就労問題と学力低下との関連

第12回：教育改革の国際比較①アメリカ

学校と地域との連携・協働がどのように推進されたのか

第13回：教育改革の国際比較②イギリス

ー学校・教育行政・地域の連携とコネクションズ・サービスー

第14回：これからの教育改革の方向性

ー今後の教職の課題と教師の実践的指導力の涵養

（学校制度のあり方をめぐって）ー

第15回：まとめー社会変化だけが学校教育問題を惹起しているのかー

定期試験

テキスト

原 清治他『比較教育社会学へのイマージュ』（学文社、2016年）

参考書・参考資料等

授業内で適宜配布する。

学生に対する評価

試験：60％、授業内課題：40％

授業科目名： 教育経営論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 河佐 英俊
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
今日的な教育課題に適切に対応する学校経営の在り方、また教育目標を達成するための教育の在り方など、教育の本質的な理解を基盤として、これからの教育経営について、自分の考えが明確に論じられるよう認識を深めていく。			
授業の概要			
1.公教育制度の歴史と基本的な原理について理解する。 2.日本の教育行政・学校教育の変遷と特徴を理解する。 3.学校経営における諸問題について理解し、その解決方法を見出せるようにする。 4.学校と地域との連携等これからの学校教育のあり方を考察していく。 5.危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション：教育経営の全体像 第2回 社会の変化と教育 「学校を巡る近年の様々な状況の変化」 第3回 子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題 第4回 近年の教育政策の動向 「学習指導要領改訂の動向」 第5回 公教育制度の基本原則及び公教育制度を構成している教育関係法規 第6回 教育制度を支える教育行政の理念と仕組み 第7回 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿 第8回 学校評価と学校改善 「学校における教育活動の年間の流れと学校評価（PDCAサイクル）の重要性」 第9回 学級経営と学校経営 「学級経営の仕組みと効果的な方法」 第10回 学校組織マネジメントの重要性 「学校経営と予算財務」 第11回 開かれた学校経営 「市民ぐるみ・地域ぐるみの教育」 第12回 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯 第13回 学校の危機管理（クライシスマネジメント・リスクマネジメント）の必要性 第14回 学校をとりまく安全上の課題と安全対策「具体的な事例から」 第15回 望ましい教育経営とは 「教師に求められるリーダーシップと組織対応」			
定期試験			

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

『新しい時代の教育方法』 田中耕治他 有斐閣

『小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編』 文部科学省

『中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編』 文部科学省

高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）総則編』 文部科学省

学生に対する評価

評価は、授業参加度(20%)、小レポート(30%)、定期試験(50%)に基づいて総合的に行う。

授業科目名： 教育心理学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 畠山 寛
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ				
教育活動における心理学的理解は重要である。教授方法や学習理論、あるいは、教育の対象である児童・生徒の理解がなければ、適切で効果的な教育活動は行えない。この科目では、学習心理学、発達心理学、社会心理学の基礎的な知見の紹介にとどまらず、教育に活かす方法について講義することによって、適切で効果的な教育活動について理解することを目標にする。				
授業の概要				
1. 学習に関する心理学的な理解を深める				
2. 児童・生徒の心身の発達、及び、障害に対する理解を深める				
授業計画				
第1回 教育における児童・生徒の発達理解、学習理解の重要性				
第2回 学習①：行動主義の学習理論				
第3回 学習②：認知主義の学習理論				
第4回 学習③：メタ認知、学習方略				
第5回 記憶：記憶のメカニズムと効果的な記憶法				
第6回 動機づけ：やる気の引き出し方				
第7回 発達①：発達に関する基礎的理解				
第8回 発達②：乳幼児期の発達				
第9回 発達③：児童期・青年期の発達				
第10回 個人差：知能、性格特性の把握				
第11回 障害の理解①：知的障害、自閉症				
第12回 障害の理解②：ADHD、学習障害				
第13回 学級集団：教師のあり方と生徒間関係				
第14回 教育評価の考え方				
第15回 形成テストとテストの解説				
テキスト				
参考書・参考資料等				
1. 毎回の授業資料は、授業前にmanabaコースにて配布する。				

2. 参考資料は以下の2点である

- ① 内藤佳津雄・北村世都・鏡直子編（2020）「発達と学習」（第2版），弘文堂.
- ② 石井正子・中村徳子 編（2019）「教職に生かす教育心理学」，みらい.

学生に対する評価

形成テスト（50%），レポート課題（50%）を総合したものから，授業参加度を踏まえて総合的に判断する。

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修	単位数： 2 単位	担当教員名： 太田 容次
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ			
幼稚園や保育園、認定こども園、小学校の通常学級・特別支援学級、特別支援学校等に、発達障害や知的障害をはじめとする障害や、障害はないが特別の教育的ニーズがある特別な支援が必要な幼児、児童及び生徒（以下、こどもと記す）が在籍している。教員や保育士は、こども一人一人が実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、学習上または生活上の困難を理解することが必要である。また、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関等と連携しながら組織的に指導・支援していくことも求められる。この科目では、専門職として将来働くために必要な特別支援教育に関する最低限の知識や支援方法の基礎・基本を理解し、実際の場面で生かすことを目標とする。			
授業の概要			
1）特別の支援を必要とするこどもの障害の特性及び心身の発達を理解する。 2）特別の支援を必要とするこどもの教育課程及び支援の方法を理解する。 3）障害はないが特別の教育的ニーズのあるこどもの学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 4）将来教員や保育者として求められる社会人基礎力を、講義を聴くだけでなく、演習などを通して主体的に向上させる。			
授業計画			
第1回 特別支援教育について 講義全体の概要と特別支援教育の制度の理念や仕組みについて			
第2回 心身の発達、心理的特性及び学習の過程について 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とするこどもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程について			
第3回 視覚障害のあるこどもの学習上又は生活上の困難について 特別の支援を必要とするこどもの障害の特性及び心身の発達、支援の方法を理解する。			
第4回 聴覚障害のあるこどもの学習上又は生活上の困難について 特別の支援を必要とするこどもの障害の特性及び心身の発達、支援の方法を理解する。			
第5回 知的障害のあるこどもの学習上又は生活上の困難について 特別の支援を必要とするこどもの障害の特性及び心身の発達、支援の方法を理解する。			
第6回 肢体不自由のあるこどもの学習上又は生活上の困難について			

特別の支援を必要とするこどもの障害の特性及び心身の発達、支援の方法を理解する。

第7回 病弱等のあるこどもの学習上又は生活上の困難について

特別の支援を必要とするこどもの障害の特性及び心身の発達、支援の方法を理解する。

第8回 発達障害や軽度知的障害について

特別の支援を必要とするこどもの障害の特性及び心身の発達、支援の方法を理解する。

第9回 「通級による指導」及び「自立活動」について

「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容について

第10回 個別の指導計画及び個別の教育支援計画について

特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について

第11回 特別支援教育体制について

特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性について

第12回 障害以外の特別の教育的ニーズについて

母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのあるこどもの学習上または生活上の困難や組織的な対応について

第13回 障害の心理的疑似体験(前半)

障害のあるこどもの心理的疑似体験

第14回 障害の心理的疑似体験(後半)

障害のあるこどもの心理的疑似体験

第15回 グループワーク及び発表

グループワークの発表（マイクロプレゼンテーション）、相互評価とフィードバック

テキスト

改訂版 教員と教員になりたい人のための 特別支援教育のテキスト：気付き、工夫して、つなげる。（教育ジャーナル選書）小林倫代編・著；藤井茂樹，廣瀬由美子，星祐子著 学研教育みらい

参考書・参考資料等

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省（<http://www.mext.go.jp/>）

社会人基礎力 経済産業省（<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>）

学生に対する評価

個別レポート 40%、毎回のミニコメントシート 40%、グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価 20% これらの観点から総合的に判断し評価を行う。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 田中 裕喜
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
教師が授業を行う際に必要となる教育課程の意義と編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。			
授業の概要			
教育課程の意義を理解する。			
教育課程の編成の方法を理解する。			
カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。			
授業計画			
第1回 授業をつくる			
第2回 教育課程とは何か			
第3回 教育課程の編成			
第4回 単元の構成			
第5回 学習指導要領の変遷			
第6回 現行の学習指導要領の特徴			
第7回 教育課程の社会的機能			
第8回 「主体的・対話的で深い学び」とは何か			
第9回 児童の発達の支援と教育課程			
第10回 教科横断的な教育課程			
第11回 ロングスパンの教育課程			
第12回 学校間の接続と教育課程			
第13回 カリキュラム・マネジメントの意義			
第14回 カリキュラム・マネジメントと学校運営			
第15回 カリキュラムの評価			
テキスト			
参考書・参考資料等			
『よくわかる教育課程』田中耕治編 ミネルヴァ書房			

学生に対する評価

ミニレポートの内容（50％）と定期試験に替わるレポートの内容（50％）にもとづいて評価する。

授業科目名： 特別活動・総合的な学 習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修	単位数： 2 単位	担当教員名： 河佐 英俊、大西 慎也 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法 特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
学校教育全体における特別活動及び総合的な学習の時間の意義を理解する。 特別活動における「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームと しての学校」の視点を持ちつつ、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、 地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な 知識や素養を身に付ける。 総合的な学習の時間における「探究学習」・「カリキュラム」・「理論的背景」などの視点 を持ちつつ、具体的な活動や、各教科や他領域との関連、学校だけでなく地域との連携を重視し た取組など、指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業の概要			
1. 学校教育における特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけとその意義を理解する 2. 子ども達の現状と特別活動及び総合的な学習の時間の特質を理解する 3. 特別活動及び総合的な学習の時間の変遷と今日的意義を理解する 4. 特別活動及び総合的な学習の時間の内容とその具体的な活動内容を理解する 5. 特別活動及び総合的な学習の時間の指導計画を実際に検討する 6. 特別活動及び総合的な学習の時間と他の教育活動との関連を理解する 7. 特別活動及び総合的な学習の時間の評価を理解する			
授業計画			
第1回 学校教育における特別活動の位置づけとその意義（河佐） 第2回 学習指導要領における特別活動の目標と内容（河佐） 第3回 特別活動と道徳・生徒指導との関連（いじめ・不登校等）（河佐） 第4回 特別活動と教科横断的なカリキュラム・マネジメント（河佐） 第5回 学級活動の目標と内容・特質（河佐） 第6回 児童（生徒）会・クラブ活動の目標と内容・特質（河佐） 第7回 学校行事の目標と内容・特質、地域・家庭との連携（河佐） 第8回 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性学校行事の目標と内容・特質（45分） （河佐）、総合的な学習の時間とは（45分）（大西）			

第9回 総合的な学習の時間の誕生と学習指導要領の変遷（大西）
第10回 総合的な学習の時間の学習論及び学力論（大西）
第11回 総合的な学習の時間のカリキュラムと授業構成（大西）
第12回 総合的な学習の時間の教材開発の実際（大西）
第13回 総合的な学習の時間のカリキュラム開発の実際（大西）
第14回 開発した教材及びカリキュラムについての交流会（大西）
第15回 これからの総合的な学習の時間のありかた（現代社会の教育課題と教師の役割の視点から）（大西）

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編	文部科学省
小学校学習指導要領解説（平成29年告示）総合的な学習の時間編	文部科学省
中学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編	文部科学省
中学校学習指導要領解説（平成29年告示）総合的な学習の時間編	文部科学省
高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）特別活動編	文部科学省
高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）総合的な探究の時間編	文部科学省

参考書・参考資料等

小学校特別活動指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」	国立教育政策研究所	文溪堂	国
よりよい人間関係を築く特別活動	杉田 洋	図書文化社	

学生に対する評価

二人の担当者の担当分を 50%ととする。

それぞれに、授業参加度（10%）、小レポート（15%）、小テスト(25%)の総合評価とする。

授業科目名： 教育方法学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 神月 紀輔、大西 慎也 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		
授業の到達目標及びテーマ 学校教育（幼小中高）の各発達段階において、望ましい教育方法を探求し、その実践を行えるようにする。具体的には、主体的な学びの創造、情報活用能力の育成、アクティブラーニング、社会的構成主義学習理論に基づくコミュニケーションを生かした教育方法等である。			
授業の概要 下記の3項目について、理解した上で、その実践的指導を学校教育の指導の中で行えるようにする。 ・思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動 ・情報活用の実践力を育む授業実践方法 ・社会的構成主義学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくり			
授業計画 第1回 イン트로ダクション、この授業の受け方、主体的に学ぶために（神月） 第2回 教育とは この授業における定義（神月） 第3回 教育評価（大西） 第4回 主体的な学び、アクティブラーニングとは（神月・大西） 第5回 主体的な学びを促進する授業の設計（グループディスカッション）（神月・大西） 第6回 主体的な学びを促進する授業の相互評価と自己評価（グループディスカッション）（神月・大西） 第7回 GIGAスクールと情報活用能力（神月） 第8回 まとめとこれからの教育方法（45分間）（神月）			
テキスト			
参考書・参考資料等 文部科学省 学習指導要領 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm 文部科学省 教育の情報化に関する手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm			
学生に対する評価 基本的には下記の項目について、自己評価を取り入れる。			

授業に参加する態度（40%） 各個人の状況に応じて、出席したかどうかでなく、授業中の態度も含めて、最終授業時に 40 点満点で自己採点を行う。

課題（40%） その都度、教員からレポート内容についての評価項目を示すので、それに従って自己評価を行う。

グループへの参加態度（20%） 最終授業時に行うグループ内相互評価をもとに、教員の示す評価基準で自己採点を行う。

上記の自己採点を基本とし、教員が総合的に判断し、評価を行う。

授業科目名： 教育の方法及び技術	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 東郷 多津
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		
授業の到達目標及びテーマ			
教育に関する歴史的な流れや国内外の動向を踏まえつつ、教育方法の意義を知ることを目指す。そのうえで、学習者の「学び」に着目し、それを促進する教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における指導の方法と技術およびその評価の方法を、クラスメートとの協働を通して習得し、実践に役立てられるように理解を深めます。同時にさまざまなICTの特性とその使用方法についても理解を深めう。			
授業の概要			
1.教育方法の基本原理を理解する。			
2.主体的な学習について理解する。			
3.主体的な学習を実現する授業構成を理解し、その指導技術を身につける。			
4.情報通信機器（ICT）と教材の活用方法について提案できるようになる。			
授業計画			
第1回 講義の概要とアイスブレイキング			
第2回 学ぶ意味の再考			
「第1章：『私が学ぶ』：の意味を探る」を中心とした活動及びディスカッション			
第3回 主体的な学習を知る 1			
「第3章：学びの場と学習者の変容」を中心とした活動及びディスカッション			
第4回 主体的な学習を知る 2			
「第7章：学ぶ内容はどこにあるか」協同学習を通して			
第5回 教育史上での主体的な教育			
国内外の教育学史上にある教育者の思想と教育方法紹介を通して			
ネット検索と共有			
第6回 国内外の主体的な教育事情			
「第13章：主体的学習のわが国の政策」			
「第14章：主体的学習の国際的動向」			
第7回 国内での主体的な学習事例			
ネット検索と共有			

第8回 海外での主体的な学習実践事例

ーネット検索と共有ー（目標 1、4）

第9回 教育改革に対する国際的な動向

ーネット検索と共有ー（目標 1、4）

第10回 主体的な学習を実現する授業構成及び指導案解説

「第4章：イメージ図による学習の改善と変革」を中心とした活動及びディスカッション

ICT（情報通信機器）を使った指導案の提案

※場合によって、実際の中高等学校に出向く校外学習を予定。

第11回 授業と評価方法

「第9章：教える目標と学ぶ目標」

ループリックを中心とした活動及びディスカッション

第12回 授業分析

「第5章：観察する」（対面またはオンライン）

第13回 マイクロティーチングの実践と記録と修正①

Aグループ（英語）による主体的な課題の設計、

B・Cグループ 授業観察を通じた修正提案

第14回 マイクロティーチングの実践と記録と修正②

Bグループ（国語）による主体的な課題の設計、

A・Cグループ 授業観察を通じた修正提案

第15回 マイクロティーチングの実践と記録と修正③

Cグループ（家庭科）による主体的な課題の設計、

A・Bグループ 授業観察を通じた修正提案

及び、最終ディスカッションとフィードバック

テキスト

教えるから学ぶへの変革 学習開発研究所 Kindle

『新しい教育の方法と技術』 篠原正典、宮寺晃夫編著 ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

『学習ガイドブッカー「教える」から「学ぶ」への変革』（学習開発研究所）2014 <http://www.u-manabi.org/nc2/htdocs/>

学生に対する評価

〔授業中の参加度・発表・マイクロティーチング 60%、課題レポート 40%〕をもとに、教員が総合的に判断し、評価する。

授業科目名： 教育評価	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 廣口 知世
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業の到達目標及びテーマ			
教育評価は、自己の教育活動を点検、反省、改善する役割を担っている。本授業では、教育者や保育者をめざす学生を対象に、具体的な教育評価の事例に触れながら、教育評価の概要について解説する。また、実際の授業VTRや記述物、教育現場のVTRの分析をして評価を行うなど、初等中等教育、保育・幼稚園の現場に生きて働く教育評価の力を身に付けることができるようにする。			
授業の概要			
1教育評価の役割、目的、現状を理解する。			
2教育評価の機能、手順を理解する。			
3学習評価の様々な技法を理解し、学習評価を行う。			
4指導要録や通知表の書き方を理解し、記述する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 講義計画の概要説明 講義：教育評価とは			
第2回 評価と評定の違い、教育評価の機能			
第3回 学習評価の様々な技法、学習評価の作成（グループワーク）			
第4回 学習評価の実践と評価規準と評価基準			
第5回 小学校の教育評価について			
第6回 中学校・高等学校の教育評価について			
第7回 授業VTRや記述物の分析と学習評価			
第8回 児童指導要録，生徒指導要録や通知表の書き方			
第9回 幼児の評価とは（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に）			
第10回 幼児の見取りを基にした保育実践とは			
第11回 保育実践のVTRを基にした幼児の見取り			
第12回 幼児の見取りを基にした評価			
第13回 幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録の書き方			
第14回 子どもの作品評価			
第15回 教育評価にこめる願い 子どもを育むための教育評価			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

はじめて学ぶ教育評価 佐倉英明 ジアース教育新社

資質・能力の育成と新しい学習評価 田中耕治 ぎょうせい

評価と授業をつなぐ手法と実践 田中耕治 ぎょうせい

文部科学省『幼稚園教育要領（平成 29 年告示）』

文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省『高等学習指導要領（平成30年告示）』

学生に対する評価

授業参加態度(20%)、授業時のレポート(20%)、ディスカッションやグループワーク(30%)、最終レポート(30%)に基づいて総合的に行う。

授業科目名： ICT活用教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：神月 紀輔 担当形態：講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童・生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。到達目標は、以下の通り。 1 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 2 情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 3 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 4 児童・生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。			
授業の概要 1 教育を行ううえでの技術（情報機器及び教材の活用）を習得する。 2 情報活用の実践力の概念を理解し、その学習法を活用することができる。			
授業計画 第1回：学習理論 第2回：デジタル・シティズンシップ 第3回：情報活用能力と3つの観点 第4回：情報通信技術を活用した校務推進 第5回：ICT機器と支援ツールを活用した指導計画作成 第6回：ICT機器を活用した模擬授業 第7回：模擬授業の相互評価・自己評価 第8回：これからのICT機器活用とまとめ			
テキスト 文部科学省 小学校学習指導要領 文部科学省 中学校学習指導要領 文部科学省 高等学校学習指導要領 文部科学省 教育の情報化に関する手引き			
参考書・参考資料等 和田誠（編）『ICT超かんたんスキル』時事通信社 坂本旬（編）『デジタル・シティズンシップ』大月書店			
学生に対する評価 平常点（50％），レポート（30％），自己評価（20％）			

授業科目名： 生徒指導・進路指導 の理論及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 網谷（川上）綾香 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
今日の教育現場で出会う児童生徒に関わる諸課題を認識し、特に中学・高校段階における生徒指導や進路指導・キャリア教育の意義と方法について理解する。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導や進路指導・キャリア教育を進めていくために必要な知識・技能を身に付ける。			
授業の概要			
1. 生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。			
2. すべての児童及び生徒を対象とした（特に中学・高校段階における）生徒指導、進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を理解する。			
3. 児童及び生徒が抱える個別の課題に向き合う指導の考え方とあり方（特に思春期という発達段階を理解した上でのあり方）を理解する。			
4. 学校内外における組織的取り組み、連携のあり方について理解する。			
授業計画			
第1回 生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義と原理			
第2回 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性			
第3回 すべての生徒を対象とした生徒指導の進め方			
第4回 生徒指導に関する法令：校則・懲戒・体罰等			
第5回 生徒指導上の諸課題への対応：暴力行為、いじめ			
第6回 生徒指導上の諸課題への対応：不登校			
第7回 生徒指導上の諸課題への対応：インターネットや性に関する課題			
第8回 児童生徒の自己存在感を高めるために			
第9回 キャリア教育の変遷と現状			
第10回 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と展開			
第11回 ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育			
第12回 キャリア形成の視点に立った自己評価：ポートフォリオの活用			
第13回 キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法			
第14回 キャリア教育の実践：事例検討1（家庭との連携）			

第15回 キャリア教育の実際：事例検討2（他機関との連携）・まとめ

テキスト

参考書・参考資料等

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/index.htm （文部科学省 生徒指導）
--

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm （文部科学省 キャリア教育）
--

https://www.akita-c.ed.jp/~cjid/teiyou.htm （「生徒指導提要」PDFの掲載サイト）

学生に対する評価

評価は、授業参加度(20%)，授業内課題（30%），小テスト（50%）に基づいて総合的に行う。

授業科目名： 教育相談の理論及び 方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 網谷（川上）綾香 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 学校現場における教育相談の意義を理解し、教育相談に関わる心理学等の基礎的な理論・概念を理解する。幼児，児童，生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）や技法を身に着ける。			
授業の概要 1．学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2．教育相談を進める際に必要な基礎知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を理解する。 3．教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			
授業計画 第1回 学校における教育相談の基本概念とその意義 第2回 子どもの発達課題 第3回 子ども理解の基本姿勢と方法 第4回 教育相談に関わる心理学理論（無意識へのアプローチ） 第5回 教育相談に関わる心理学理論（行動へのアプローチ） 第6回 カウンセリングマインドの重要性 第7回 カウンセリング技法の理解と実践 第8回 理解と支援①不登校 第9回 理解と支援②いじめ 第10回 理解と支援③学習意欲・発達障害 第11回 理解と支援④虐待，非行 第12回 理解と支援⑤精神疾患 第13回 予防開発的教育相談 第14回 教師のメンタルヘルスと成長 第15回 教育相談の組織的取組と連携のあり方、まとめ			

テキスト

テキストは用いず、適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

学生に対する評価

授業中に行う小課題（40％）、授業内で複数回行う小テスト（60％）により総合的に評価する。

シラバス：教職実践演習

授業科目名： 教職実践演習		単位数：2単位		担当教員名： 教科担当教員：加藤 佐千子 教職担当教員：石川 裕之、東郷 多津	
科 目	教職に関する科目（教職実践演習）				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 1グループあたりおおむね20人程度					
教員の連携・協力体制 教科担当教員と教職担当教員を中心に、実務家教員（中・高教員経験者）の協力を得て授業を展開する。					
授業の到達目標及びテーマ 教師として求められる実践的指導力を体得し、また、教職課程での学びにおける実践的指導力の体得過程を可視化する。これらを通して、教員としての適格性を最終確認することを目的とする。					
授業の概要 教職担当教員と教科担当教員が連携・協力しつつ、「使命感や責任感、教育的愛情などに関する事項（A領域）」「社会性や対人関係能力に関する事項（B領域）」「幼児児童生徒理解や学級経営に関する事項（C領域）」「教科内容などの指導力に関する事項（D領域）」の4領域に関する内容について授業を展開する。その際、ケースメソッドを用いたグループ討議や教材研究、指導計画案作成、模擬授業、相互評価、履修カルテを用いた自己省察および学習成果の発表など、授業内容に応じた多様な方法を取り入れながら授業をおこなう。このような授業の性質上、2～4コマ連続の開講方式を採ることとする。					
授業計画 第1回：学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情①－ケースメソッドⅠ：討議－【A領域】 第2回：学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情②－ケースメソッドⅠ：発表－【A領域】 第3回：教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認①－教育実習を中心に－【A・B・C・D領域】 第4回：教員における対人援助職としての専門性①－ケースメソッドⅡ：討議－【B領域】 第5回：教員における対人援助職としての専門性②－ケースメソッドⅡ：発表－【B領域】 第6回：幼児児童生徒理解および学級経営上当面する諸問題に対する対応①－ケースメソッドⅢ：討議－【C領域】 第7回：幼児児童生徒理解および学級経営上当面する諸問題に対する対応①－ケースメソッドⅢ：発表－【C領域】 第8回：領域・教科内容等の指導力に関する検討と相互確認①－授業テーマの設定－【D領域】 第9回：領域・教科内容等の指導力に関する検討と相互確認②－授業構想の検討－【D領域】					

第10回：実践的指導力の体得過程についての相互確認①－履修カルテの確認－【ABCD領域】

第11回：実践的指導力の体得過程についての相互確認②－履修カルテによる振り返り－【ABCD領域】

第12回：実践的指導力の体得過程についての相互確認③－相互評価－【ABCD領域】

第13回：実践的指導力の体得過程についての相互確認④－発表－【ABCD領域】

第14回：教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認②－成長過程と到達点の可視化－【A・B・C・D領域】

第15回：教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認③－発表・共有－【A・B・C・D領域】

テキスト

参考書・参考資料等

1. 『幼稚園教育要領』 文部科学省
1. 『小学校学習指導要領』 文部科学省
1. 『中学校学習指導要領』 文部科学省
2. 『高等学校学習指導要領』 文部科学省

学生に対する評価

以下の方法・基準により評価する。

- (1) 授業参加度（発言の積極性やグループ討議への貢献度等）：30%
- (2) 提出物（各回の振り返りシート等を含む）：20%
- (3) 授業内レポート（指導計画案および模擬授業に対するコメント等を含む）：30%
- (4) 発表（プレゼンテーション「教職課程の履修を通じた4年間の私の成長過程および到達点、そして10年後の自分」）：20%

ただし、学習状況が著しく不良で教員としての実践的指導力の適格性がないと判断する場合は、全担当教員の合意の上で、評定点にかかわらず不合格とする。